

令和 2 年度（2020 年） 幼児教育科
教育課程シラバス

愛国学園保育専門学校

目 次

教育課程（1・2年生）	1
-------------	---

実務経験のある教員による授業科目一覧：令和2年度	2
--------------------------	---

○1年生

1. 教養科目

日本国憲法	有川 博	3
体育講義	木戸 直美	4
体育実技	木戸 直美	5
英語コミュニケーション	甘糟 節子	6
子どもと自然	吉岡 景昭	8

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

子どもと人間関係	五十嵐 淳子	9
子どもと環境	石井 久美子	10
子どもと言葉	小林 恵	11
子どもと表現	森川 みゆき	12
子どもと音楽A	高田、洞庭、山崎、加藤	13
保育内容総論	五十嵐 淳子	15
保育内容（人間関係）の指導法	五十嵐 淳子	16
保育内容（言葉）の指導法	小林 恵	17

3. 教育の基礎的理解に関する科目

教育原理	田口 賢太郎	18
保育・教職論	坂本真理子・船田鈴子	19
教育課程論	坂本 真理子	20

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

幼児理解の理論及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・丸山 東人・21

5. 保育の本質・目的に関する科目

保育原理・・・・・・・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・22

子ども家庭福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・浅見 優哉・23

社会的養護Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・奥西 允・24

6. 保育の対象の理解に関する科目

子ども家庭支援の心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・早川 貴子・25

子どもの食と栄養・・・・・・・・・・・・・・・・・・扶川 利枝・26

7. 保育の内容・方法に関する科目

保育の計画と評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・坂本 真理子・28

保育内容領域（健康）・・・・・・・・・・・・・・・・・・丸山 東人・29

保育内容領域（人間関係）・・・・・・・・・・・・・・・・・・五十嵐 淳子・30

保育内容領域（環境）・・・・・・・・・・・・・・・・・・石井 久美子・31

保育内容領域（言葉）・・・・・・・・・・・・・・・・・・小林 恵・32

保育内容領域（表現）・・・・・・・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・33

乳児保育Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・新海 智子・34

乳児保育Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・新海 智子・35

子どもの健康と安全・・・・・・・・・・・・・・・・・・浅見 優哉・新海 智子・36

障害児保育・・・・・・・・・・・・・・・・・・馬場 節子・37

8. 教育実践に関する科目

教育実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・39

9. 保育実習

保育実習指導Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・石井 久美子・42

○2年生

1. 教養科目

情報機器の操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・佐伯 慶太郎・・46

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

子どもと健康・・・・・・・・・・・・・・・・・・丸山 東人・・48

子どもと音楽B・・・・・・・・・・・・・・・・・・高田、洞庭、山崎、加藤・・49

子どもと表現A・・・・・・・・・・・・・・・・・・橘 政愛・・50

子どもと表現B・・・・・・・・・・・・・・・・・・堀内 有子・・51

保育内容（健康）の指導法・・・・・・・・・・・・・・・・・・丸山 東人・・52

保育内容（環境）の指導法・・・・・・・・・・・・・・・・・・石井 久美子・・53

保育内容（表現）の指導法・・・・・・・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・・55

3. 教育の基礎的理解に関する科目

子ども社会学・・・・・・・・・・・・・・・・・・五十嵐 淳子・・56

教育・保育の心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・早川 貴子・・57

特別支援教育概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・五十嵐 淳子・・58

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

幼児教育方法論・・・・・・・・・・・・・・・・・・田口 賢太郎・・59

教育相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・高田 伸枝・・60

5. 教育実践に関する科目

教育実習事前事後指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・・62

教育実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・・63

保育・教職実践演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・船田 鈴子・・66

6. 保育の本質・目的に関する科目

社会福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・山口 稜弘・・68

子ども家庭支援論・・・・・・・・・・・・・・・・・・新海 智子・・69

7. 保育の対象の理解に関する科目

子どもの理解と援助	早川 貴子	70
子どもの保健	皆川 まり	71

8. 保育の内容・方法に関する科目

社会的養護Ⅱ	奥西 允	72
子育て支援	五十嵐 淳子	73

9. 保育実習

保育実習Ⅰ	石井久美子・浅見優哉	74
保育実習Ⅱ	石井久美子	76
保育実習指導Ⅱ	石井久美子	77

(別表1) 幼児教育科 教 育 課 程

系 列		科 目	単位数	授業 形態	開 設 時間数	保育士		告示による 教科目	幼稚園教諭				
						単位	時間		単位	時間			
教養科目			日本国憲法	○ 2	講義	30	2	30	-	2	30		
			体育講義	○ 1	講義	15	1	15	-	1	15		
			体育実技	1	実技	30	1	30	-	1	30		
			情報機器の操作	2	演習	60	2	60	-	2	60		
			英語コミュニケーション	○ 2	演習	60	2	60	-	2	60		
			子どもと自然	○ 2	講義	30	2	30	-	2	30		
合 計			10		225	10	225		10	225			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	子どもと健康	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	子どもと人間関係	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	子どもと環境	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	子どもと言葉	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	子どもと表現	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	子どもと音楽A	○ 2	演習	60	-	-	-	-	2	60			
	子どもと音楽B	1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	子どもと表現A	1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	子どもと表現B	1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	保育内容総論	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	保育内容(健康)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	保育内容(人間関係)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	保育内容(環境)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	保育内容(言葉)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	保育内容(表現)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	-	1	30			
	教育の基礎的理解に関する科目			教育原理	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
				保育・教職論	○ 2	講義	30	-	-	-	-	2	30
				子ども社会学	2	講義	30	-	-	-	-	2	30
				教育・保育の心理学	2	講義	30	-	-	-	-	2	30
				特別支援教育概論	2	講義	30	-	-	-	-	2	30
				教育課程論	○ 2	講義	30	-	-	-	-	2	30
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			幼児教育方法論	2	講義	30	-	-	-	2	30	
				幼児理解の理論及び方法	○ 2	講義	30	-	-	-	-	2	30
				教育相談	2	演習	60	-	-	-	-	2	60
	教育実践に関する科目			教育実習事前事後指導	1	演習	30	-	-	-	1	30	
				教育実習	4	実習	180	-	-	-	-	4	180
				保育・教職実践演習	2	演習	60	-	-	-	-	2	60
	計			41		1050	-	-	-	41	1050		
	専 門 教 育 科 目	保育の本質・目的に関する科目		保育原理	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30	
				*教育原理	○ 2	講義	30	2	30	必修	-	-	
				子ども家庭福祉	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30	
				社会福祉	2	講義	30	2	30	必修	2	30	
				子ども家庭支援論	2	講義	30	2	30	必修	2	30	
				社会的養護Ⅰ	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30	
		保育の対象の理解に関する科目		*保育・教職論	○ 2	講義	30	2	30	必修	-	-	
				*子ども社会学	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-	
				*特別支援教育概論	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-	
				*教育・保育の心理学	2	講義	30	2	30	必修	-	-	
				子ども家庭支援の心理学	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30	
				子どもの理解と援助	1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育の内容・方法に関する科目		子どもの保健	2	講義	30	2	30	必修	2	30	
				子どもの食と栄養	○ 2	演習	60	2	60	必修	2	60	
				*幼児理解の理論及び方法	○ 2	講義	30	2	30	選択必修	-	-	
				*教育相談	2	演習	60	2	60	選択必修	-	-	
				保育の計画と評価	2	講義	30	2	30	必修	2	30	
*保育内容総論				○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-		
保育の内容・方法に関する科目		保育内容領域(健康)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		保育内容領域(人間関係)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		保育内容領域(環境)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		保育内容領域(言葉)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		保育内容領域(表現)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		*保育内容(健康)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-			
		*保育内容(人間関係)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-			
		*保育内容(環境)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-			
		*保育内容(言葉)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-			
		*保育内容(表現)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-			
		乳児保育Ⅰ	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30			
		乳児保育Ⅱ	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		子どもの健康と安全	1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		障害児保育	○ 2	演習	60	2	60	必修	2	60			
		社会的養護Ⅱ	1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		子育て支援	1	演習	30	1	30	必修	1	30			
		*子どもと健康	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*子どもと人間関係	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*子どもと環境	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*子どもと言葉	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*子どもと表現	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*子どもと音楽A	○ 2	演習	60	2	60	選択必修	-	-			
		*子どもと音楽B	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*子どもと表現A	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*子どもと表現B	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-			
		*教育課程論	○ 2	講義	30	2	30	選択必修	-	-			
		*幼児教育方法論	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-			
		保育実習			保育実習Ⅰ	4	実習	180	4	180	必修	-	-
					保育実習指導Ⅰ	○ 2	演習	60	2	60	必修	-	-
					保育実習Ⅱ	2	実習	90	2	90	選択必修	-	-
保育実習指導Ⅱ	1				演習	30	1	30	選択必修	-	-		
総合演習			*保育・教職実践演習	2	演習	60	2	60	必修	-	-		
計			41		1050	77	1890		32	690			
合 計			82		2100	77	1890		73	1740			
総 合 計			92		2325	87	2115		83	1965			

*の付いた科目は保育士、幼稚園教諭の共通科目(計は純計)

○印は1年
無印は2年

*児童福祉法施行規則第6条の2による告示に基づく必修科目・選択必修科目

実務経験のある教員による授業科目一覧：令和２年度

担当教員名	授業科目名	履修 学年	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか）
有川 博	日本国憲法	1	2	憲法上の機関である会計検査院で、国の財政の検査に従事した経験を踏まえ、憲法は何のために制定されるのか、憲法は誰のためのものかなどについての講義を行う。
皆川 まり	子どもの保健	2	2	小児科医としての臨床経験と小児保健の研究者としての成果を活かした講義を行う。
早川 貴子	子ども家庭支援の心理学	1	2	保健センター等における発達相談、発達心理の実務経験を踏まえ、子どもの心身の発達心理、保育と相談援助等について講義を行う。
	教育・保育の心理学	2	2	
	子ども理解と援助	2	2	
奥西 充	社会的養護Ⅰ	1	2	重度知的障害者施設の生活支援員の実践経験を踏まえ、障害児の理解及び社会的養護の必要性等について講義を行う。
	社会的養護Ⅱ	2	2	

1 年生

1. 教養科目

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：有川 博 担当形態：単独 講義
科 目	教養科目-日本国憲法		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 立憲主義・憲法の基本原則についての理解を深める。 1) 立憲主義について理解を深める。 2) 国民主義についての理解を深める 3) 平和主義についての理解を深める (2) 基本的人権についての理解を深める。 1) 法の下での平等についての理解を深める 2) 社会権についての理解を深める 3) 自由権についての理解を深める (3) 三権分立・統治機構の役割についての理解を深める。 1) 国会・内閣・裁判所についての理解を深める 2) 財政・納税・地方自治についての理解を深める。		
授業の概要	国民の基本的人権の話を中心に据えながら、日本国憲法全般について、国内や海外の最新のニュースや裁判例、欧米の歴史などを織りまぜて解説。講義を通して、憲法は何のために制定されるか（立憲主義）、憲法は誰のためのものか（国民主権）現代社会ではなぜ格差が拡大するのか（資本主義と競争原理）、憲法は格差社会を生きるためにどのような解決策を講じようとしているか（基本的人権の保障・社会権）などについての理解を深め、社会を見つめる力を養う。		
授業計画			
第 1 回：はじめに——なぜ格差は生じるか、格差社会を生きるために 第 2 回：「国民主権」の意味、女性が天皇のなるために 第 3 回：憲法第 9 条と「平和主義」、安全保障関連法と「立憲主義」 第 4 回：「基本的人権」の保護・人権と人権の衝突 第 5 回：「法の下での平等」と 18 歳選挙権、憲法から考えるいじめ問題 第 6 回：君が代を歌う自由・歌わない自由、女性再婚禁止期間・夫婦別姓と最高裁 第 7 回：表現の自由と報道・出版の自由、音楽・出版と著作権法 第 8 回：憲法と刑法・刑事訴訟法、罪と罰と罪刑法定主義 第 9 回：自白と証拠能力、推定無罪 第 10 回：生活保護費の支給停止と生存権、環境権と地球温暖化問題 第 11 回：国会と法律、労働権と労働者派遣法 第 12 回：議院内閣制と衆議院の解散、情報公開制度と公文書管理法 第 13 回：司法権の独立、裁判員制度と検察審査会 第 14 回：財政と課税法律主義、地方自治と環境条例、ふるさと納税と裁判 第 15 回：おわりに——憲法は誰のもの 定期試験			
テキスト	石本伸晃著「世の中がわかる憲法ドリル」平丹社 （平凡社新書）		
参考書 参考資料等	適宜プリントを配布します。		
学生に対する評価	受講姿勢 50%、定期試験 50%受講姿勢の評価には、練習問題に対する取り組み・発表等についての評価を含む。		

授業科目名：体育講義	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：木戸 直美
			担当形態：単独 講義
科 目	教養科目-体育		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)健康の概念について理解し、「健康」「身体」の認識をより深める。 (2)現代社会において、健康維持・増進、及び豊かなライフスタイルを構築するための方法を理解し、それらについて主体的に実行することができる。		
授業の概要	これまで、健康についてあまり意識しなくても、特に問題はなかったのではないだろうか。しかし、生涯における健康の獲得は、長期的な自己管理が重要となる。 この授業では、「健康とは何か？」及び「身体とは何か？」について言及し、自己の健康維持・増進・及び豊かなライフスタイルを構築する上での知識や主体的行動力を身につけ学ぶ。		
授業計画			
第 1 回：ガイダンス：授業内容・進め方について 第 2 回：健康の概念 第 3 回：健康と体力(1) 第 4 回：健康と体力(2) 第 5 回：健康の三要素＜栄養・運動・休養＞（1） 第 6 回：健康の三要素＜栄養・運動・休養＞（2） 第 7 回：健康の三要素＜栄養・運動・休養＞（3） 第 8 回：生活活動調査と METS 第 9 回：身体意識とは？ 第 10 回：身体意識と姿勢 第 11 回：健康と自己調節作用① 第 12 回：健康と自己調節作用② 第 13 回：心とからだの健康 第 14 回：現代とスポーツ 第 15 回：現代生活における課題 定期試験			
テキスト	始めの一步 にこにこ食べ物ゲーム（一粒書房） 一歩一歩進もう「健康」ワークブック（一粒書房）		
参考書 参考資料等	適宜準備する		
学生に対する評価	授業参加（態度・積極性・協調性）20%、発表 30%、筆記テスト 30%、レポート 20% から総合的に判断する。		

授業科目名：体育実技	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：木戸 直美
			担当形態：単独 実技
科 目	教養科目-体育		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)運動実践を通して体力の維持・増進を図る。 (2)健康・運動に関する基礎知識、及び運動能力の向上を図る。 (3)運動を通したコミュニケーション方法を理解する。		
授業の概要	本授業では、運動実践を通して、自らの体力を維持・増進させることを目指す。また、これまでに学習してきた健康や運動に関する基本的な知識や、運動技能の向上を目指す。保育者として子ども達と運送遊びを充分に楽しむこと、及び実生活において生涯スポーツへと方向づけることを目的とする。		
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業内容・進め方について 第2回：体づくり、体ほぐし（1） 第3回：体づくり、体ほぐし（2） 第4回：体づくり、体ほぐし（3） 第5回：リズム運動（1）リトミック基礎 第6回：リズム運動（2）リトミック応用 第7回：リズム運動（3）リトミック応用の組み合わせ 第8回：遊具を使った運動（1）なわ① 第9回：遊具を使った運動（2）なわ② 第10回：遊具を使った運動（3）ボール① 第11回：遊具を使った運動（4）ボール② 第12回：伝承遊び 第13回：創作活動（1）大枠の確認 第14回：創作活動（2）作り込み 第15回：創作活動（3）踊りこみ、発表会準備 作品発表会			
テキスト	始めの一步 にこにこ食べ物ゲーム（一粒書房） 一步一步進もう「健康」ワークブック（一粒書房）		
参考書 参考資料等	適宜準備する		
学生に対する評価	授業参加（態度・積極性・協調性）50%、実技試験 30%、振り返りシート 20%、から総合的に判断する。		

授業科目名： 英語コミュニケーション	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：甘糟 節子
			担当形態：単独 演習
科 目	教養科目-英語コミュニケーション		
授業の到達目標 及びテーマ	保育士、幼稚園教諭として必要な英語の習得。 外国文化、多様性を重んじる姿勢の育成。 外国の言葉のみならず、様々な方面の興味を引き出す。		
授業の概要	外国人の子どもの保育に必要な英語の修得。 文化の違いの理解を深めるための知識の修得。 保育の現場での児童英語活動に必要な英語修得。 全体目標：英語に親しみをもち、異文化に興味を持った保育士の養成		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション、Ice Breaker、自己紹介			
第 2 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 3 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 4 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 5 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 6 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 7 回：名画鑑賞（The Sound of Music）			
第 8 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 9 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 10 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 11 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 12 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 13 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺			
第 14 回：名画鑑賞（Mary Poppins）			
第 15 回：まとめ			

授業計画	
第 16 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 17 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 18 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 19 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 20 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 21 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 22 回：名画鑑賞（Home Alone） 第 23 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 24 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 25 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 26 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 27 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 28 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第 29 回：名画鑑賞（Charlotte's Web） 第 30 回：まとめ 定期試験	
テキスト	保育の英会話（萌文書林） 英語が苦手でもできる！子どもと一緒に楽しむ英語（大学図書出版）
参考書 参考資料等	児童英語教育を学ぶ人のために（世界思想社） 保育英語検定テキスト（本の泉社）
学生に対する評価	受講態度（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 子どもと自然	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：吉岡 景昭
			担当形態：単独 講義
科 目	教養科目-子どもと自然		
授業の到達目標 及びテーマ			
授業の概要	教科書を参照しながら授業を進め、適宜、参考資料（コピー）を配布し、参考文献を回覧する。 この授業は子どもたちが身の回りの自然に関心を持ち、そして、自然に親しみ、同時に畏怖の念を持つことによって健やかで情緒豊かな人へと育ち上がっていくことの手助けができるようになることを目的とする。		
授業計画			
第1回：第1章 自然について 自然とはどのようなものなのか、自然の要素、自然の恵みと怖さについて			
第2回：第2章 天文・地象・気象 1. 太陽と月と地球との関係			
第3回 2. 地球の内部で起きていること			
第4回 3. 地球の気象			
第5回 4. 太陽系 5. 宇宙について			
第6回：第3章 生物について 1. 生物とは 1) 生物の特質			
第7回：1. 2) 細胞について 2) 種について			
第8回：2. 生物の分類			
第9回：3. ウィルスについて 4. 生物の多様性			
第10回： 1) 体の構造			
第11回：4. 2) 生活空間と生き方			
第12回：5. 生物同士の繋がり 1) 種の間関係			
第13回：5. 2) 生物群集に見られる構造			
第14回：第4章 生態系について			
第15回： 授業の総ざらい			
定期試験			
テキスト	ニューステージ 新生物図表（浜島書店）ニューステージ 新地学図表（浜島書店）		
参考書・参考資料等	適宜（新聞の記事を含む）		
学生に対する評価	レポート（50%）、定期試験（50%）		

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

授業科目名： 子どもと人間関係	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：五十嵐 淳子 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人との関わりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達特性を踏まえた、人との関わりを育てる保育者の役割と援助について習得する。一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、関わっていくことはどういくことかを捉え、人と関わる力を養う「人間関係」の領域について、理解し保育実践力を養うことを目指す。		
授業の概要	子ども達の「人と関わる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め乳幼児期の人間関係の発達特性を踏まえた保育実践のあり方を指導する。幼児の「人と関わる力」がどのように育まれていくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション～領域「人間関係」 第 2 回：領域「人間関係」のねらいと内容 第 3 回：3 歳未満の児の人と関わる力の育ち 第 4 回：3 歳以上の児の人と関わる力の育ち 第 5 回：子どもの言葉と人間関係 第 6 回：子どもの遊びと人間関係（映像使用） 第 7 回：人との関わりを育てる支援のあり方 第 8 回：子どもの人間関係を育てる支援のあり方 第 9 回：子どもと人間関係の広がり（園生活や地域へ） 第 10 回：乳幼児期の自立心や協同性の育ち 第 11 回：幼児期に育みたい人と関わる力 第 12 回：人と関わる力の育ちと環境との関係性～事例を通して考える～ 第 13 回：道徳性と規範意識の芽生え 第 14 回：保育者と保護者の人間関係 第 15 回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題 定期試験			
テキスト	浅見均「新版 実践から学ぶ人間関係」大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40％）、提出課題（10％）、個人発表（40％）、受講態度（10％）		

授業科目名： 子どもと環境	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児を取り巻く様々な環境の重要性について知り、乳幼児の発達に及ぼす環境や課題について知識や理解を深める。 乳幼児期の終わりまでに育みたい姿を実現するために必要な、望ましい環境構成のあり方や指導に必要な方法について理解する。 環境とのかかわりについて乳幼児の特性を理解し、体験させたい内容に応じた教材を活用し保育の構想に役立てることができる。また、乳幼児の生活と関連のある事象に興味や関心を持ち、具体的に取り上げ説明できるようになる力を身につける。		
授業の概要	乳幼児期は環境を通して行う保育が重要であることを踏まえ、領域「環境」のねらいや内容について学ぶ。また、乳幼児が周囲の様々な「環境」とどのようにかかわり発達していくのかについて事例や映像等を通して理解を深め、乳幼児期を取り巻く身近な環境とのかかわり方を考えていく。		
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス、子どもを取り巻く環境とは 第 2 回：現代社会における環境の現状（映像使用） 第 3 回：領域「環境」とは 第 4 回：環境にかかわる力を育てる 第 5 回：子どもと人的環境とのかかわり 第 6 回：子どもと物的環境とのかかわり 第 7 回：子どもと自然環境とのかかわり 第 8 回：子どもと生活（文字や形、数とのかかわり） 第 9 回：子どもと生活（季節や法則とのかかわり） 第 10 回：子どもと生活（行事や地域とのかかわり） 第 11 回：園での生活と環境（保育室・園庭・園外保育） 第 12 回：子どもにとっての安全な環境づくり 第 13 回：環境としての保育者の役割 第 14 回：主体的にかかわるための環境づくり 第 15 回：まとめ：環境を通して行う保育とは 定期試験			
テキスト	保育実践を生かす保育内容「環境」（保育出版社）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	試験（60%）、提出物（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

授業科目名： 子どもと言葉	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：小林 恵
			担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「言葉」のねらい及び内容と子どもの言葉を育てる保育者の役割や環境について理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、言葉の感覚を豊かにする保育者の役割や援助の仕方を身につける。領域「言葉」の特性に応じた現代の課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる力を養う。言葉を育てる想像力を豊かにする児童文化財の意義や内容について理解する。		
授業の概要	領域「言葉」について構造的に捉えた上で、乳幼児期の言葉の獲得課程や言葉の意義と機能について理解し、保育者としてどのように関わっていけばよいのかを事例及び映像等を通して学ぶ。豊かな感覚や言葉を育むために必要な基礎的知識を身につけることをめざしていく。		
授業計画			
第 1 回：言葉とは何か 第 2 回：領域「言葉」の内容理解 第 3 回：乳幼児期の言葉の教育 第 4 回：乳幼児期における言葉の発達①0 歳～2 歳 第 5 回：乳幼児期における言葉の発達②3 歳～6 歳 第 6 回：生活体験と言葉 第 7 回：言葉と遊び 第 8 回：感動体験と言葉 第 9 回：言葉の発達を促す児童文化財（言葉の発達を促す教材の応用） 第 10 回：文字との出会い 第 11 回：子どもの育ちを支える保育者の言葉（映像を使用） 第 12 回：言葉の関わりに配慮を要する子ども（映像を使用） 第 13 回：保幼小の連携と言葉 第 14 回：幼児期の言葉の課題 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60％）、課題提出（20％）、受講態度（20％）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと表現	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について全体構造を理解する。領域「表現」に関わる子どもが自分の思いや意見をもって主体的に取り組むことができる表現活動について学び理解する。子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。表現活動における知識や技法を習得し、より、豊かな表現活動につなげていくことができる。		
授業の概要	領域「表現」に示される子どもの豊かな感性や表現を育むために、保育者がどのように関わっていくのか実践例や映像等を通して具体的に学習する。子どもが生活の中で様々な表現方法を育んでいくための知識や援助のあり方を身につける。		
授業計画			
第 1 回：保育における領域「表現」とは 第 2 回：表現の発達 第 3 回：表現を育むということ (身体による表現) 第 4 回：表現を引き出す援助 (身体による表現) 第 5 回：表現を育むということ (音楽による表現) 第 6 回：表現を引き出す援助 (音楽による表現) 第 7 回：表現を育むということ (造形による表現) 第 8 回：表現を引き出す援助 (造形による表現) 第 9 回：表現力を豊かにするワーク (身体による表現) 第 10 回：表現力を豊かにするワーク (音楽による表現) 第 11 回：表現力を豊かにするワーク (造形による表現) 第 12 回：表現力を豊かにするワーク (総合的な表現) 第 13 回：表現を育む援助指導 (指導計画案の基本) 第 14 回：表現を育む援助指導 (指導計画案の作成) 第 15 回：領域「表現」をとりまく問題 定期試験			
テキスト	保育内容 要領 表現 (わかば社)		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」(平成 29 年度告示)、厚生労働省「保育所保育指針」(平成 29 年度告示)、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」(平成 29 年度告示)、適宜プリント(資料等)を配布する。		
学生に対する評価	定期試験 (50%)、受講態度 (20%)、課題提出 (30%) により総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと音楽A	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員： 高田 伸枝・洞庭 容子 加藤 瑞恵・山崎 未貴
			担当形態：クラス分け 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に示されたねらい及び内容を踏まえ、保育の現場において役立つピアノ実技と音楽理論、指導法を習得する。童謡の弾き歌いを中心に音楽に自ら親しみ楽しさを味わうことができる。子どもの発達段階において音楽表現の楽しさを伝えられるような実践力を身につける。		
授業の概要	領域「表現」に関わる育みたい資質能力を理解し、示された領域「表現」の背景となる専門領域と関連させて音楽実技の基礎的な知識や指導法を身につける。子ども一人ひとりの発達に即した、保育における音楽表現の楽しさが伝わるようなピアノ曲や歌唱曲をグループで話し合ったり、実習も視野に入れたりした実践的な学びが実現できるようにする。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション・・・領域「表現」のねらいと内容を理解し、音楽表現との関連性について知る。課題曲と授業形態について説明			
第 2 回：かたつむり（季節の歌を弾いたり歌ったりして楽しむことができるように練習する。）			
第 3 回：大きなくりの木の下で（身体の諸感覚を通して表現の喜びを味わえるように練習する。）			
第 4 回：むすんでひらいて（言葉の意味を理解しピアノや歌に合わせて手遊びができるような力をう。）			
第 5 回：こいのぼり（行事の歌を通し、情景や心情を表現する楽しさを味わえるような弾き歌いの力を身につける。）			
第 6 回：おえかきのうた（園生活を想定して歌いながらピアノを弾く。）			
第 7 回：手をたたきましょう（様々な場面で使える歌と演奏法を学び、表現活動を楽しめるように練習する。）			
第 8 回：うみ（季節の歌を情景を想定しながら歌うことで子ども自身の表現力を養えるように弾く。）			
第 9 回：きらきら星（英語の歌詞でも歌うことを楽しめるように弾き歌いをする。）			
第 10 回：シャボン玉（情景が伝わるようなメロディを楽しみながら演奏技法を高める。）			
第 11 回：たなばたさま（行事の歌を用いて言葉の意味や情景が伝わりとうに弾き歌いをする。）			
第 12 回：山の音楽家（簡易な楽器を使って乳幼児の発達に即した分担奏を考え練習する。）			
第 13 回：森のくまさん（輪唱の仕組みについて知りリズムカルな言葉遊びを楽しめるように弾く練習をする。）			
第 14 回：おべんとう（園生活に想定して歌いながらピアノを弾く。）			
第 15 回：まとめ（事前に提示された課題曲の確認と練習。前期の振り返り。）			
実技試験			

授業計画
第 16 回：おはようのうた（園生活の中での生活の歌を歌いながら弾き、子どもが楽しく歌えるような力を身につける。） 第 17 回：はをみがきましょう（この歌を通して「歯みがき」に興味や関心が持てるように演奏する） 第 18 回：さよならのうた（園生活の中での生活の歌を歌いながら弾き、子どもが楽しく歌えるような力を身につける） 第 19 回：アイアイ（輪唱の仕組みについて知りリズムカルな言葉遊びを楽しむことができるように弾く） 第 20 回：おもちゃのチャチャチャ（言葉の表現を楽しみながら歌える奏法を身につける） 第 21 回：おんまはみんな（リズムカルな歌を楽しく弾くことによって子どもが豊かな表現方法を身につけることができるように練習する。） 第 22 回：おばけなんていないさ（子どもが興味を持つ歌の特性を考えながらイメージ豊かに弾いたり歌ったりする） 第 23 回：すうじのうた（数量に関心を持てる方法や技能を身につけリズムカルに弾く） 第 24 回：夕やけこやけ（情景や心情が浮かびそれを表現できる演奏方法を身につける） 第 25 回：やきいもグーチーパー（簡単な歌遊びを通してピアノに合わせ身体表現ができるように弾く） 第 26 回：ドレミの歌（表現することの楽しさを実感しながらより豊かな表現力が発揮できるように練習する。） 第 27 回：ジングルベル（曲調を揃えながら歌唱スキルの発達を促せるように弾く） 第 28 回：お正月（行事の歌に親しみ、表現豊かに歌えるように演奏する） 第 29 回：思い出のアルバム（歌詞からイメージできる情景を思い浮かべながら豊かな感性を育むことができるような演奏法を身につける） 第 30 回：まとめ復習 実技試験
テキスト：「幼児のための音楽教育」教育芸術社
参考書・参考資料等：文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）
学生に対する評価：実技試験（60％）授業態度（30％）小テスト（10％）から総合的に評価する。

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：五十嵐 淳子
			担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	①保育の基本となる保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づき、保育内容を理解する。②保育内容の歴史的変遷について学ぶ。③保育内容の展開として、子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の視点を学ぶ。④養護と保育の一体化について保育実践につなげて理解する。⑤保育の多様な展開について学び、今日的課題を把握する。		
授業の概要	保育内容総論は、各論としてとらえられる保育内容を総合的に把握して理解する、ものである。子どもの育ちを支える保育者として求められる知識と保育技術、その他保育内容に関わりことを総合的に学び身につけることを目標とする。		
授業計画			
第 1 回：保育の基本と保育内容（保育内容とは、保育の構造 ・ 構成、保育内容の総合的把握）			
第 2 回：保育の特質（幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育内容の考え方、幼稚園教育の特質—幼稚園教育要領、保育所保育指針の特質—保育所保育指針）			
第 3 回：保育内容の変遷（戦前・戦後の保育内容、幼稚園創設と恩物による保育の開始、幼稚園の普及と保育内容の改編、幼稚園教育の確立 ※含む保育所）			
第 4 回：幼児の発達と生活（幼児の発達、年齢ごとの発達、幼児の生活、保育内容との関連）			
第 5 回：環境と保育内容（幼児にとっての遊び、遊びの中で学んでいること幼児理解と保育内容）			
第 6 回：遊びによる総合的な保育（遊びを通しての総合的指導、遊びを支える遊びの援助）			
第 7 回：幼児理解と保育内容（カウンセリングマインド（子どもと寄り添う）、子どもを見る目、記録することによる幼児理解）			
第 8 回：保育内容と保育の計画①（保育における計画、保育の計画の考え方、指導計画の考え方、具体的な指導計画）			
第 9 回：保育内容と保育の計画②（幼稚園における教育課程と指導計画の実際）			
第 10 回：保育内容と保育の計画③（幼稚園における教育課程と指導計画の実際）			
第 11 回：保育内容と保育の展開（幼稚園・保育所における指導の課題、保育形態（形態自在）、行事の捉え方）			
第 12 回：保育の評価と記録（評価とはなにか、保育と記録、自己表現）			
第 13 回：保育所の役割（保育者の使命と役割、保育者の人間性、受容と共感、保育者の資質の向上			
第 14 回：保育内容における現状と課題（小学校教育との連携、幼保小や認定子ども園との関連、家庭や地域との関連）			
第 15 回：今日の保育に課題と保育内容（生活環境の変化と保育内容）			
定期試験			
テキスト	浅見均「新版 保育内容総論」大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40％）、受講態度（10％）、課題提出（10％）、個人発表（40％）		

授業科目名： 保育内容（人間関係） の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：五十嵐 淳子 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「人間関係」のねらいと保育内容を踏まえ、幼稚園教育において育みたい資質、能力について理解し、子どもの姿と指導計画に基づいた保育実践ができるようになることを目標とする。子どもの発達にふさわしい「人間関係」の育ちについて具体的な保育の構想や実践する方法を身につける。模擬保育やロールプレイなどの振り返りを通して保育を改善する力を修得する。		
授業の概要	本講義では、一人ひとりの子どもの発達を見通した保育の展開を目指し、子どもの実態や生活に即した領域「人間関係」に視点をあてた指導計画の作成に基づき、模擬保育の実際の事例をとおして保育実践ができるように理解を深める。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方、保育内容指導法「人間関係」について			
第 2 回：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、要領「人間関係」のねらい及び内容と全体構造を理解する。			
第 3 回：領域「人間関係」に視点をあてた幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点を理解する。			
第 4 回：個と集団との育ちの関係性について			
第 5 回：自立心を育む援助について事例に沿って検討			
第 6 回：人とのかかわりを育てる保育者の援助及び留意点について事例に沿って検討葛藤			
第 7 回：葛藤体験を通してルールや決まりの必要性について事例に沿って検討			
第 8 回：模擬保育の指導案を立案するー保育場面の中で育つ人とのかかわりを育てる保育を想定した指導案を立案する。			
第 9 回：模擬保育の実践			
第 10 回：模擬保育の振り返りー具体的事例に触れ、振り返りを通して保育を改善する視点を身につけ、保育を構想する方法を理解する。			
第 11 回：領域「人間関係」に関連した保育場面を想定して、人との関わりの育ちを見る視点について主体的、対話的に学び、グループ毎に検討しまとめる。			
第 12 回：保育内容領域「人間関係」の指導法の課題について考え話し合う。			
第 13 回：遊具や用具を集団の中で協力し合ったり、譲り合ったりする体験を通した遊びの理解（情報機器を使用した保育を行う）			
第 14 回：領域「人間関係」に視点をあて、地域との連携・交流、小学校の教科等のつながりを理解する。			
第 15 回：保育内容領域「人間関係」の指導法をめぐる現代的課題とまとめ			
定期試験			
テキスト	著者：江戸 茂博・田中 卓也 「幼児教育方法論」 学文社		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40％）、提出課題（10％）、個人発表（40％）、受講態度（10％）		

授業科目名： 保育内容（言葉）の 指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：小林 恵
			担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、言葉の意義について捉え、乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、乳幼児の言葉の育ちを支える保育者としての意義について理解を深め保育実践力を養う。また、乳幼児の豊かな言葉が育まれる保育教材を研究し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。子どもが体験し身につけていく方法や指導上の留意点について映像資料や具体的な資料を用いて理解する。		
授業の概要	保育現場において子どもたちが様々な言語教材に親しみながら豊かな言葉やイメージが広がり育まれるよう環境のあり方や模擬保育に向けた具体的な指導方法について研究し実践力がつくようにする。子どもの発達に即した領域「言葉」のねらいや内容を踏まえた保育実践力を養うことを目指すために、具体的な事例や映像などを使用したり、グループでディスカッションしたりして保育実践ができるように理解を深めていく。		
授業計画			
第 1 回：乳幼児期の特徴・言葉の発達過程について～映像資料や事例を通して、幼児の姿について理解を深める～（グループ討議） 第 2 回：指導者として幼児の言葉環境に必要な心得や準備～具体的にどのようなことか事例を基に考える～（グループ討議） 第 3 回：幼児の文字との出会いや獲得過程について～幼児のあらゆる生活場面を想定し考える～（グループ討議） 第 4 回：幼児が文字で伝える楽しさを育む援助として、遊びを通して各文字の具体的な場面について～映像資料などを参考に確認する～（グループ討議） 第 5 回：言葉を育む環境構成と援助～けんかやトラブルの場面での保育者の役割を具体例や映像機器を通して学ぶ～（グループ討議） 第 6 回：乳幼児を対象とする絵本・紙芝居の選び方と読み方の工夫 第 7 回：絵本・紙芝居の読み聞かせの実践 第 8 回：言葉に対する感覚を豊かにする保育～しりとり、反対ことば等のさまざまな言葉遊びについての研究～（グループ討議） 第 9 回：言葉に関する感覚を豊かにする保育～しりとり、反対ことば等のさまざまな言葉遊びについての実践～（グループ討議） 第 10 回：エプロンシアター・パネルシアターの活用方法と留意点について（グループ毎に発表） 第 11 回：人形劇・ペープサート・素話の活用方法と留意点について 第 12 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊び―準備 第 13 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊び―準備 第 14 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊び―実践（発表） 第 15 回：模擬保育の振り返り（反省と課題） 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度・課題提出・表現技術（40%）から総合的に評価する。		

3. 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目名： 教育原理	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：田口 賢太郎 担当形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれらの安威相互の関係を理解する。教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解し、現代教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解する。		
授業の概要	最古の学問と言われている哲学が中心的な関心としていたのが教育についてである。したがった、教育への人々の関心は古い。常に、人間は教育に興味を持っていたといえる。しかし、にもかかわらず、教育にまつわる問題が解決を見たことは一度もない。それは、教育の問題が常に現代的なものであり、また、課題含みのものとして存在しているためであろう。教育に携わるものとして、理想、歴史、制度、経済、様々な視点から教育を思案し、語るために基礎を得る。		
授業計画			
第 1 回：イントロダクション：講義概要の説明、授業の方法、入門的な教育学の話題を提示 第 2 回：教育とは何か 第 3 回：西洋の教育の歴史 1 古代ギリシア・古代ローマ 第 4 回：西洋の教育の歴史 2 西洋キリスト教思想、中世 第 5 回：西洋の教育の歴史 3 初期近代ロック、ルソー 第 6 回：西洋の教育の歴史 4 ペスタロッチ、フレーベル 第 7 回：西洋の教育の歴史 5 デューイ、モンテッソーリ 第 8 回：日本の教育の歴史 1 近世～戦前の日本の教育 第 9 回：日本の教育の歴史 2 戦後の日本の教育 第 10 回：現代の教育 1 日本の教育制度 文部省、教育基本法 第 11 回：現代の教育 2 諸外国の教育制度 アメリカ、フランス、ドイツ、中国 第 12 回：現代の教育 3 教育の実践と理論、カリキュラム 第 13 回：現代の教育 4 教育評価とテスト 第 14 回：現代の教育 5 教師の専門職生徒教員評価 第 15 回：まとめ、過去から現代につながる教育地平 定期試験			
テキスト	教育の質を高める教育原理（大学図書出版）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	小テスト（70%）、学習参加態度（20%）、課題提出（10%）を定期試験に替え、総合的に評価する。		

授業科目名： 保育・教職論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員： 坂本 真理子・船田 鈴子 担当形態：オムニバス 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育者の職務を理解し、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、幅広い資質を身につける。また、保育者の制度的な位置づけと社会的な意義について理解し、義務と倫理について理解する。		
授業の概要	保育者としてのあるべき姿とその実際について、具体的な事例（学生の実習体験等も含む）を通し考察し、求められる保育者像とその意義や役割の理解を深める。また、現代社会が求める保育者の資質や能力、職務内容等について習得する。		
授業計画			
第 1 回：保育・教育とは－「保育者になる」ということ－（坂本） 第 2 回：保育者の仕事－保育者の 1 日を知る－（坂本） 第 3 回：保育という仕事の実態（1）（坂本） 第 4 回：保育という仕事の実態（2）（坂本） 第 5 回：保育者の役割（坂本） 第 6 回：保育者の倫理（坂本） 第 7 回：職務内容の理解（1）（坂本） 第 8 回：職務内容の理解（2）（坂本） 第 9 回：保育者の専門性－保育者に求められる能力－（船田） 第 10 回：保育者の専門性－保育カンファレンスの事例を通して－（船田） 第 11 回：保育者の専門性－保育者としての学びとキャリア形成－（船田） 第 12 回：地域の中の保育者の役割（船田） 第 13 回：学びあう保育者－チーム保育と保育者の同僚性－（船田） 第 14 回：保育者の協働と連携（船田） 第 15 回：保育者の現状と今後の課題（船田） 定期試験			
テキスト	「最新保育講座 2 保育者論」 ミネルヴァ書房		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	実技試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		

授業科目名： 教育課程論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：坂本 真理子
			担当形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	教育課程の意識及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成のポイントや方法について理解する。		
授業の概要	教育課程についての基礎知識を知り、指導計画作成の手順やカリキュラムマネジメントについて理解する。教育課程を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業計画			
第 1 回：ガイダンス～教育課程とは～ 第 2 回：教育課程の意義 第 3 回：教育要領の歴史的変遷 第 4 回：指導計画と保育の実際（VTR・・・はじめての幼稚園実習） 第 5 回：教育課程編成の基本と原理 第 6 回：保育計画の種類と特徴 第 7 回：長期（年間・月間）の指導計画（編成方法） 第 8 回：短期（週案・日案）の指導計画（編成方法） 第 9 回：子どもの発達や実態と合った指導計画 第 10 回：実習指導案の作成と留意点（実際に作成） 第 11 回：保育の記録と評価 第 12 回：子どもの実態と計画、教育課程との関連 第 13 回：保育の計画と実践と評価との関係性 第 14 回：カリキュラムマネジメントの意義と重要性 第 15 回：まとめ～保育の計画の必要性和仕組みの確認～ 定期試験			
テキスト	最新保育講座 5 保育課程・（ミネルヴァ書房）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	実技試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目名： 幼児理解の理論及び方法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：丸山 東人
			担当形態：単独 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1．保育者の役割、職務内容について理解する。2．子どもや保護者に対する適切な援助方法を理解する。3．子どもや保護者への対応を考える中、援助の普遍性について学ぶ。		
授業の概要	子どもたちや保護者への対策を、子どもたちの発達、教育理論等を踏まえ適切な理解をする。また、保育、心理などにおける援助の方策の共通理念についても考えていく。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション この授業の意味について			
第 2 回：保育の基本としての援助			
第 3 回：幼児理解に基いた援助のねらいと内容			
第 4 回：保育で求められる援助 1（援助とは何か）			
第 5 回：保育で求められる援助 2（子どもへの援助活動）			
第 6 回：保育で求められる援助 3（保護者との連携、援助）			
第 7 回：発達と援助 1（発達をどうとらえていくか）			
第 8 回：発達と援助 2（集団と個への対応）			
第 9 回：気になる子への対応			
第 10 回：遊びを通した集団の形成			
第 11 回：人間関係を通した援助のあり方			
第 12 回：自立への展開			
第 13 回：援助の普遍性に関する考察			
第 14 回：保育の質について			
第 15 回：現代的課題			
定期試験			
テキスト	演習保育相談支援（萌文書林）、文部科学省「用地憲教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60％）、受講態度（20％）、課題提出（20％）		

5. 保育の本質・目的に関する科目

授業科目名： 保育原理		単位数： 2 単位	担当教員：森川 みゆき
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の意義や保育者としての専門的内容の基盤を広い視野から学習することで、保育を総合的に捉え、保育の営みの役割を理解する。		
授業の概要	保育の専門性、保育観、子ども観、子どもの理解、保育における環境の意味など、保育現場からの視点を大切にしながら現在求められている「保育」の意味を考察していく。		
授業計画			
第 1 回：子どもとは 第 2 回：保育とは何か 第 3 回：子どもを取り巻く環境の現状 第 4 回：現代社会が求める保育 第 5 回：保育の本質と意義（1）目標 第 6 回：保育の本質と意義（2）内容 第 7 回：就学前保育制度と保育の役割 第 8 回：保育の基本 第 9 回：発達過程に応じた保育 第 10 回：保育のねらい、内容、方法 第 11 回：保育の計画と評価 第 12 回：保幼小及び家庭との連携 第 13 回：保育の思想と歴史 第 14 回：保育の現状と課題 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	最新 保育原理-わかりやすく保育の本質に迫る-（保育出版社）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度）		
参考書 参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 子ども家庭福祉		単位数： 2 単位	担当教員名：浅見 優哉
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・子ども家庭福祉の概要と施策や子どもに対する一般的な考え方の変遷、それぞれの時代における子どもの状況や問題を例をもとに学ぶ。 ・子どもの人権について考え方と関連する法律を知り、人権擁護や児童福祉の実施機関について学ぶ。		
授業の概要	(1) 子ども家庭福祉の対象や内容について理解する 1) 子ども家庭福祉の制度や歴史について理解している。 2) 実際に子どもや家庭にどのような対応がなされているのかを理解している。 (2) 子どもが置かれている状況や諸問題について学び、理解する 3) 時代や社会ごとに子どもの置かれている状況、子どもへの考え方、モラルに違いがあることを理解している。 (3) 子ども家庭福祉に対する考えや意見を持つ 4) 1)～3)を踏まえ、どのような環境が子どもに必要であるか、どのような状態が子どもにとって幸せであるかなどについて、自分の考えを述べることができる。		
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方、評価方法、科目の説明） 第2回：子ども家庭福祉とは何か（意義・理念） 第3回：子どもと家庭を取り巻く社会 第4回：子どもの福祉の歴史①（イギリス・アメリカ） 第5回：子どもの福祉の歴史②（ニュージーランド・日本） 第6回：4カ国の福祉を比較したディスカッション 第7回：子ども家庭福祉に関する制度と法律（児童福祉法） 第8回：子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 第9回：少子化と子育て家庭へのサービス①（子育て支援・母子保健サービス・ひとり親家庭の福祉サービス） 第10回：少子化と子育て家庭へのサービス②（保育サービス・子ども家庭に関する各種手当） 第11回：子育て支援と子どもに関する諸問題①（地域の子育て支援サービス、外国籍の子どもへの支援） 第12回：子育て支援と子どもに関する諸問題②（虐待・DV・非行・子どもの貧困） 第13回：子育て支援と子どもに関する諸問題③（社会的養護・障害児の福祉） 第14回：地域における連携・協働とネットワーク 第15回まとめ 定期試験			
テキスト	図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉（萌文書林）		
参考書・ 参考資料等	保育所保育指針、こども六法、新聞記事、映像資料など		
学生に対する評価	受講態度 20%、提出物 20%、試験 60%から総合的に評価する		

授業科目名： 社会的養護Ⅰ		単位数： 2 単位	担当教員名： 奥西 允
			担当形態： 単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ： 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解できるようになる。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できるようになる。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解できるようになる。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解できるようになる。 5. 社会的養護の現状と課題について理解できるようになる。			
授業の概要： 社会的養護について、その意義や歴史的変遷、子どもの人権擁護、制度や実施体系、専門職の関わり、今後の課題などを総合的に学んでいきます。また、自分自身の障害福祉分野での実務経験を生かし、事例を用いた解説なども行なっていきます。			
授業計画 第1回： イントロダクション：講義の概要や授業方法の説明 第2回： 社会的養護の意義と歴史的変遷 第3回： 家庭の果たす機能と社会的養護 第4回： 児童の権利養護 第5回： 社会的養護の制度と法体系 第6回： 社会的養護の領域と実施体系 第7回： 家庭養護と施設養護 第8回： 社会的養護の専門職 第9回： 児童相談所と施設養護の基本的理念 第10回： 施設養護の実際 第11回： 社会的養護と自立支援におけるソーシャルワーク 第12回： 施設等の運営管理の現状と課題 第13回： 倫理の確立 第14回： 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 第15回： 社会的養護と地域社会資源との連携 定期試験			
テキスト	上田征三・岡本明博編（2019） 『子ども支援の基礎から学ぶ 社会的養護Ⅰ』大学図書出版		
参考書・参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（50%）、期末試験（50%）から総合的に評価する。		

6. 保育の対象の理解に関する科目

授業科目名： 子ども家庭支援の心理学		単位数： 2 単位	担当教員：早川 貴子
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	人の誕生日から死までの生涯発達をおさえた上で、家族・家庭との関連について講義する。また、子どもからおとなまでの取り巻く環境とのかかわり、現実の子どもやおとなの姿などの理解を深める。		
授業の概要	(1) 生涯発達の観点をふまえながら子どもの心身の発達の基礎を学ぶ。 1) 子どもの心身の発達に関わる心理学の基礎を理解し、習得する。 2) 生涯発達の観点から発達の過程を理解する。 3) 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。 (2) 家族・家庭の意義や機能をふまえながら、親子関係・家族間等について発達的に理解し包括視点を習得する。 1) 家族・家庭の意義と機能を理解する。 2) 親子関係・家族関係を理解する。 (3) 精神保健とその課題 1) 子どもの健康にかかる問題について理解する。 2) 特別な配慮を要する家庭について知識を得る。		
授業計画			
第 1 回：子ども家庭支援の心理学 第 2 回：乳幼児期の発達的特徴 第 3 回：乳幼児の発達的特徴 第 4 回：学童期の発達的特徴 第 5 回：思春期から青年期の発達的特徴 第 6 回：子どもの心と健康① 第 7 回：子どもの心と健康② 第 8 回：成人期から老年期の発達的特徴 第 9 回：家族システムと家族発達 第 10 回：親になるとはどういうことか 第 11 回：子育て支援の社会状況の変化 第 12 回：ライフワークとワーク・ライフ・バランス 第 13 回：多様な子育て家族とその支援 第 14 回：特別な配慮を必要とする家族とその支援 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	資料を配布する		
参考書 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（20%）、試験（80%）、から総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもの食と栄養		単位数： 2 単位	担当教員：扶川 利枝
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。 4、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
授業の概要	食育の重点をおき、乳幼児期、幼児期、学童期、思春期の各段階に応じた食生活のあり方と問題点、および母親・保護者になる者として母性栄養も学習する。		
授業計画			
第1回：子どもの健康と食生活 乳幼児の食生活の現状 乳幼児の栄養アセスメント			
第2回：子どもの健康と食生活 朝食欠食・偏食の問題と対応 嘔まない子の問題と対応			
第3回：子どもの健康と食生活 孤食の弊害と対応 世界の子どもたちの食生活			
第4回：栄養・食に関する基本的知識 消化吸収の仕組み 栄養の基礎知識			
第5回：栄養・食に関する基礎的知識 たんぱく質の代謝・糖代謝と栄養学的意義			
第6回：栄養・食に関する基礎的知識 脂質の代謝・ビタミンの代謝と栄養学的意義			
第7回：栄養・食に関する基礎的知識 ミネラルの代謝と栄養学的意義 食物繊維と水分			
第8回：栄養・食に関する基礎的知識 日本人の食事摂取基準			
第9回：子どもの発育・発達と栄養・食生活・授乳・離乳支援ガイド 乳幼児の咀嚼機能の発達			
第10回：まとめ 小テスト（1～9まで）			
第11回：子どもの発育・発達と栄養・食生活 乳幼児の味覚・消化吸収機能の発達と食事提供			
第12回：子どもの発育・発達と栄養・食生活 乳幼児期の栄養－乳汁栄養 離乳食期栄養			
第13回：子どもの発育・発達と栄養・食生活 調乳（実習）			
第14回：子どもの発育・発達と栄養・食生活 幼児期栄養 学童・思春期の栄養			
第15回：食育の基本と実践 食育基本法の概要			
まとめ			

授業計画	
第 16 回：食育の基本と実践 保育所における食育の推進 計画・実施・評価 第 17 回：食育の基本と実践 学校給食の現状・栄養教諭 第 18 回：児童福祉施設や家庭における食と栄養 児童福祉施設における食に関する指針 児童福祉施設と給食の役割 第 19 回：児童福祉施設や家庭における食と栄養 保育所における食に関する保護者支援 食に関する地域と連携 第 20 回：まとめ 小テスト（11～19 まで） 第 21 回：食の安全 感染症と食中毒の違い 第 22 回：食の安全 食中毒の発生状況と予防策 第 23 回：食の安全 施設における衛生管理 第 24 回：基礎調理実習（実習） 第 25 回：基礎調理実習（実習） 第 26 回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー 鉄欠乏性貧血 第 27 回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 糖尿病 発熱 体調不良 第 28 回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 急性胃腸炎 便秘 第 29 回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 肥満 やせ 障害児 第 30 回：まとめ 定期試験	
テキスト	子どもの食と栄養（中山書店）
参考書 参考資料等	必要に応じて資料を配布いたします。
学生に対する評価	期末試験（50%）、小テスト・提出課題（30%）、授業態度（出席状況を含む）（20%）からの総合的に評価する。（実習は、必ず出席しレポートを提出すること。）

7. 保育の内容・方法に関する科目

授業科目名： 保育の計画と評価		単位数： 2 単位	担当教員：坂本 真理子
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の全体計画についての基礎知識を知り、指導計画作成の手順やカリキュラムマネジメントについて理解する。全体的な計画を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業の概要	保育の計画と評価の意義及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成ポイントや方法について理解する。		
授業計画			
第 1 回：ガイダンス～保育の計画と評価について～ 第 2 回：全体的な計画の意義 第 3 回：保育指針の歴史的変遷 第 4 回：全体的な計画編成の基本と原理 第 5 回：保育の計画の種類と特徴 第 6 回：長期（年間・月間）の指導計画（編成方法） 第 7 回：短期（週案・日案）の指導計画（編成方法） 第 8 回：子どもの発達や実態と合った指導計画（編成方法） 第 9 回：指導計画と保育の実際 第 10 回：実習指導案の作成と留意点① 第 11 回：実習指導案の作成と留意点② 第 12 回：保育の記録と評価 第 13 回：教育課程との関係性 第 14 回：カリキュラムマネジメントの意義と重要性 第 15 回：まとめ～保育の計画の必要性和仕組みの確認～ 定期試験			
テキスト	教育課程・保育の計画と評価 （書いて学べる指導計画）		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	定期考査（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		

授業科目名： 保育内容領域（健康）		単位数： 1 単位	担当教員：丸山 東人
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1、領域「健康」について理解を深める。2、保育内容「健康」について、そのねらいと内容の関係性、意味について理解を深める。3、健康の基礎となる生活習慣の形成を育てるために援助のありかた、および援助の普通遍性について理解する。		
授業の概要	子どもたちの健康、および健康の基礎となる生活習慣を育てるための方法論、実践論を事例および情報機器を用いて教授していく。幼児期のそれぞれの発達段階に基づき、健康の意味を自立する過程について、および保育実践のあり方について指導する。		
授業計画			
第1回：オリエンテーション この授業の意味について			
第2回：保育の基本としての健康			
第3回：領域「健康のねらいと内容」			
第4回：教材研究1（健康に関わる教材を情報機器を用いて理解する）			
第5回：教材研究2（健康に関わる教材の応用）			
第6回：子どもの発達からみた健康			
第7回：健康と身体表現との関係			
第8回：模擬保育1（役割を演じることによる保育実践）			
第9回：簿議保育2（ロールプレイの意味および指導案指導を行う）			
第10回：模擬保育3（保育実践の理解とともに指導案指導を行う）			
第11回：幼児の遊びからみた健康の意味			
第12回：自立への展開			
第13回：運動能力の課題（情報機器を用いて理解する）			
第14回：生活リズムからみた健康（情報機器を用いて理解する）			
第15回：子どもの健康における現代的課題			
定期試験			
テキスト	子どもと健康（大学図書出版）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領解説 文部科学省（フレーベル館） 保育所保育指針解説 厚生労働省（フレーベル館）		
学生に対する評価	定期考査（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		

授業科目名： 保育内容領域 (人間関係)		単位数： 1 単位	担当教員：五十嵐 淳子 担当形態：単独 演習
科 目	保育内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、かかわっていくことはどういくことを捉え、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域を理解する。 保育内容領域「人間関係」について構造的にとらえた上で、保育内容をいかに構成・展開していくか理解を深める保育実践力を養うことを目標とする。 幼児の「人とかかわる力」がどのように育んでいくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。		
授業の概要	人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人とのかわりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達の特性を踏まえた、人とかかわりを育てる保育者の役割と援助について指導する。 子ども達の「人とかかわる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め、乳幼児期の人間関係の発達特性をふまえた保育実践の在り方を指導する。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション、領域「人間関係」とは 第 2 回：子どもの遊びと人間関係 第 3 回：領域「人間関係」のねらいと内容 第 4 回：乳幼児期における人間関係の発達 第 5 回：人とかかわりを育てる保育教材 第 6 回：子どもの人間関係を育てる保育者の役割 第 7 回：子どもの言葉と人間関係 第 8 回：子どもの人間関係を育む保育実践①保育教材と子ども 第 9 回：子どもの人間関係を育む保育実践②子どもへの声がけ 第 10 回：子どもの人間関係を育む保育実践③子どもとかかわり 第 11 回：子どもを取り巻く地域や高齢者との交流 第 12 回：保育者同士の人間関係 第 13 回：保育者と保護者の人間関係 第 14 回：保護者へのかかわり（学級便りの作成） 第 15 回：まとめ 重要事項の整理と確認 定期試験			
テキスト	著者：田中 卓也 「保育内容（人間関係）ワークブック」 あいり出版		
参考書 参考資料等	五十嵐 淳子「多文化理解・国際理解 多様性の尊重を目指して」大学図書出版 2019 年		
学生に対する評価	授業態度（10%）、保育実践の発表（40%）、提出物（10%）、定期試験（40%）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（環境）		単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の基本は、環境を通して行われるものであること、またそのほか 4 つの領域と相互に関連し合って、子どもの健やかな成長発達が助長されていくことへの理解を深める。 子ども達を取り巻く環境（主に保育所）と主体的にかかわりたくなるような望ましい環境について理解し、具体的な支援方法について学ぶ。		
授業の概要	環境を通して行う保育の重要性について十分な理解ができるよう事例や資料を通して学んでいく。また、子どもの生活を豊かにするための環境構成や具体的な支援方法について考察していく。		
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス／領域「環境」のねらいと内容（保育所保育指針）			
第 2 回：子どもを取り巻く保育環境			
第 3 回：保育所の生活と環境（乳児）			
第 4 回：保育所の生活と環境（1 歳以上 3 歳未満児）			
第 5 回：保育所の生活と環境（3 歳以上児）			
第 6 回：乳児期の基礎を培う保育環境			
第 7 回：保育所の子どもと環境とのかかわり（人的、物的）			
第 8 回：保育所の子どもと生活①（文字や形、数とのかかわり）			
第 9 回：保育所の子どもと生活②（季節ごとの自然とのかかわり）			
第 10 回：保育所の子どもと生活③（行事や地域とのかかわり）			
第 11 回：子どもの健康支援・安全管理と環境			
第 12 回：保育所におけるアレルギー対応と環境			
第 13 回：保育所における食育推進と環境			
第 14 回：領域「環境」を通して行う保育とは			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	保育実践に生かす保育内容「環境」（保育出版社）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	試験（60%）、提出物（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

授業科目名： 保育内容領域（言葉）		単位数： 1 単位	担当教員：小林 恵
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の言葉の獲得とその過程、領域「言葉」についての考え方を理解し、乳幼児期に言葉が豊かに育つには保育者としてどのように援助すればよいか基本的な知識を深め、保育者の役割を理解する。		
授業の概要	講義と映像等を使用し、乳幼児の言葉の特徴と言葉に係る幅広い視点からの学びをすすめる。		
授業計画			
第 1 回：言葉の教育の移り変わり			
第 2 回：領域「言葉」と他領域との関係①			
第 3 回：領域「言葉」と他領域との関係②			
第 4 回：言葉の獲得過程とその特徴①			
第 5 回：言葉の獲得過程とその特徴②			
第 6 回：言葉の発達を支える保育者の役割①			
第 7 回：言葉の発達を支える保育者の役割②			
第 8 回：子どもの言葉が育つ環境とは			
第 9 回：領域「言葉」を踏まえた環境構成と指導計画①			
第 10 回：領域「言葉」を踏まえた環境構成と指導計画②			
第 11 回：話し言葉と書き言葉が伝える世界			
第 12 回：ごっこ遊びと言葉			
第 13 回：メディアと言葉			
第 14 回：幼児教育の現代的課題と領域「言葉」			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60％）、受講態度（20％）、課題提出（20％）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（表現）		単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、保育における「表現」とはどのようなものであるのか学習する。また、一人ひとりの子どもの豊かな表現を育てていくために保育者としてどのように援助すればよいのか理解を深める。		
授業の概要	領域「表現」のねらい及び内容をふまえ、乳幼児の表現を育む保育者の援助について考えていく。また、実践事例の検討を通して指導場面を具体的にイメージし、保育を構想する方法を身に付ける。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 子どもの表現活動について			
第 2 回：歌遊び①手遊び			
第 3 回：リズム遊び ①基本動作			
第 4 回：リズム遊び ②基本動作の発展			
第 5 回：歌遊び②わらべ歌			
第 6 回：身近な素材を使った表現活動①ビニール袋			
第 7 回：身近な素材を使った表現活動②ハンカチ			
第 8 回：歌遊び③童謡			
第 9 回：模倣遊び①様々な動きの体験			
第 10 回：模倣遊び②創作			
第 11 回：模倣遊び③発表			
第 12 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動①創作（大枠）			
第 13 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動②創作（細部）			
第 14 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動③創作（調整）			
第 15 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動④発表			
定期試験			
テキスト	保育内容 領域 表現（わかば社） 文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 乳児保育Ⅰ		単位数： 2 単位	担当教員：新海 智子
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・乳児保育の意義・目標と歴史の変遷及び役割等について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解する。		
授業の概要	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷を踏まえ、保育所、乳児院などにおけるさまざまな乳児保育の現状を知る。また、乳児の発育・発達の過程や特性を学び、「乳児保育の基礎となる考え方」についての理解を深めていく。		
授業計画			
第1回：乳児保育の意義・目的 第2回：乳児保育の歴史と現状 第3回：乳児保育の様々な場と多様化するニーズ 第4回：乳児に関わる制度と法律 第5回：乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 第6回：保育所保育指針における乳児保育とは 第7回：保育所保育指針①0歳児の保育の「ねらい及び内容」 第8回：保育所保育指針②1歳以上3歳未満児の保育の「ねらい及び内容」 第9回：3歳児以上に移行する時期の保育 第10回：乳児のこころの発達 第11回：乳児のことばの発達 第12回：乳児のからだの発達 第13回：乳児のあそびと環境作り①0歳児 第14回：乳児のあそびと環境作り②1歳児 第15回：乳児のあそびと環境作り③2歳児 定期試験			
テキスト	志村聡子編著『はじめて学ぶ乳児保育』 同文書院		
参考書 参考資料等	吉本和子『乳児保育一人ひとりが大切に育てられるために』エイデル研究所 厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40%）、試験（60%）		

授業科目名： 乳児保育Ⅱ		単位数： 1 単位	担当教員：新海 智子
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	・3歳未満児の発達を踏まえた援助や関わり方について理解する。 ・乳児保育における保育計画の作成について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する		
授業の概要	3歳未満児の発育・発達の特徴を理解し具体的な援助や関わり方について学ぶ。また、「全体的な計画」を踏まえて、これまで学んだことを活かし一人ひとりが大切に育つことができる保育の計画を作成していく技術を身に付けていく。さらに、保護者や他の関係機関との連携を学び、これからの乳児保育と保育者に求められるものを学ぶ。		
授業計画			
第1回：乳児保育の重要性 第2回：保育所の一日の流れ 第3回：乳児保育における内容と方法①抱っこ・着脱・排泄・清潔 第4回：乳児の保育における内容と方法②調乳・授乳・食事 第5回：乳児の保育における内容と方法③睡眠・生活リズム 第6回：乳児保育における安全管理と衛生管理 第7回：乳児保育と連携①保育所・他職種 第8回：乳児保育と連携②保護者・地域 第9回：特別な配慮を必要とする子ども 第10回：保育の記録と評価 第11回：全体的な計画と指導計画 第12回：0歳児保育の計画と援助 第13回：1歳児保育の計画と援助 第14回：2歳児保育の計画と援助 第15回：これからの乳児保育に求められるもの 定期試験			
テキスト	志村聡子編著『はじめて学ぶ乳児保育』 同文書院		
参考書 参考資料等	吉本和子『乳児保育一人ひとりが大切に育てられるために』エイデル研究所 今井和子『育ちの理解と指導計画』小学館 厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携認定型こども園教育・保育要領』（平成29年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40％）、試験（60％）		

授業科目名： 子どもの健康と安全		単位数： 1 単位	担当教員名： 浅見 優哉・新海 智子 担当形態：オムニバス 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの健康および安全について、発達ごとに踏まえておきたい知識を学び身に付け、子どもの生命を守るために必要な、また衛生的で健康な生活に必要な環境が管理できる意識を養う。 保育者にとって必要な、アレルギーや予防接種、感染症などの予防と対応、障害児への対応や緊急時に対応できるための危機管理に関する正しい知識を身に付ける。		
授業の概要	(1) 子どもの健康で安全な生活に必要な環境を理解する (2) 保育者として必要な、子どもの衛生、体調不良や怪我、事故、アレルギーや障害などへの知識や実際的な対応方法を理解する。 1) 保育における子どもの健康と安全のために必要な環境について具体的に理解している 2) 子どもの健全な育ちに必要な、保護者や保育者間の連携の重要性を理解している 3) 健康と安全を子どもが意識して生活できる関わり方について自分の考えを持っている 4) 感染症疾患、アレルギーなどに対する予防と対策および対応について理解している 5) 子どもの怪我、疾病、生命の危険などの緊急時に必要な知識や対応を習得している		
授業計画			
第 1 回：ガイダンス（授業の進め方、評価方法、科目の説明） 第 2 回：子どもの健康と安全とは 第 3 回：子どもの健康と保育の環境・衛生管理①（適切な環境） 第 4 回：子どもの健康と保育の環境・衛生管理②（適切な衛生管理） 第 5 回：保育における健康観察 第 6 回：個別の健康状態の把握とデータ管理 第 7 回：子どもの養護の実際①（だっこ、おんぶ、オムツ替え） 第 8 回：子どもの養護の実際②（沐浴） 第 9 回：子どもの養護の実際③（生活習慣と達成援助） 第 10 回：健康と安全の管理①（感染症への対応） 第 11 回：健康と安全の管理②（事故への対応） 第 12 回：健康と安全の管理③（危機管理・災害への対策） 第 13 回：健康と安全の管理④（子どもの体調不良などへの対応） 第 14 回：保育における保健的対応 第 15 回：健康及び安全の管理体制 定期試験			
テキスト	子どもの健康と安全（学建書院）		
参考書・ 参考資料等			
学生に対する評価	受講態度 20%、レポート 20%、期末試験 60%から総合的に評価する。		

授業科目名：障害児保育		単位数： 2 単位	担当教員：馬場 節子
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 障害保育の理念を知り障害を理解し、障害児保育の実際を知る。 1) 歴史と基本を知る。 2) 対照的にみた障害のある子どもを理解し、その援助を知る。 3) 障害児保育の実際を知る。 (2) 障害児保育の期間連携と現状と課題を考える。 1) 指導計画作成・記録・評価を学ぶ。 2) 家庭及び関連機関との連携を知る。 3) 福祉・教育における現状と課題を知り考える。		
授業の概要	テキストや配布資料に基づく解説講義をお中心としつつ、ディスカッションや各種事例を用いた演習を行う。 ・障害児保育の理論と実践を学ぶ。 ・障害児保育の考え方、保育の方法、評価、保護者への支援などについて理解を深める。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション・障害児保育の学び方（前期：教科書 第 1 講～第 7 講）			
第 2 回：障害の概念			
第 3 回：障害児保育の歴史			
第 4 回：地域社会への参加・インクルージョンと合理的配慮			
第 5 回： 対象別にみた障害の理解（1）肢体不自由児			
第 6 回： 対象別にみた障害の理解（2）知的障害児			
第 7 回： 対象別にみた障害の理解（3）視覚障害児			
第 8 回： 対象別にみた障害の理解（4）聴覚障害児			
第 9 回： 対象別にみた障害の理解（5）言語障害児			
第 10 回： 対象別にみた障害の理解（6）発達障害児とは			
第 11 回： 対象別にみた障害の理解（7）発達障害児（AD・HD）			
第 12 回： 対象別にみた障害の理解（8）発達障害児（LD）			
第 13 回： 対象別にみた障害の理解（9）発達障害児（ASD）			
第 14 回： 重症心身障害児・医療的ケア児			
第 15 回： 前期のまとめ・レポート提出			

授業計画	
第 16 回：夏期課題の発表と提出 後期に向けて（後期：教科書 第 8 講～第 15 講） 第 17 回：指導計画と個別の支援計画 第 18 回：支援計画作成 調査とグループワーク・発表（1） 第 19 回：生活や遊びの環境と子どもどうしのかかわり・育ち合い 第 20 回：問題行動の捉え方 調査とグループワーク・発表（2） 第 21 回：健康と安全 第 22 回：横の連携・協働 1（職員間） 第 23 回：横の連携・協働 2（保護者に対する理解と交流や支え合い） 第 24 回：事例から 調査とグループワーク・発表（3） 第 25 回：横の連携・協働 3（地域・専門機関） 第 26 回：専門機関の実際 調査とグループワーク・発表（4） 第 27 回：縦の連携・協働（小学校） 第 28 回：福祉・教育における現状と課題 第 29 回：後期のまとめ・レポート提出 第 30 回：1 年のまとめ 定期試験	
テキスト	新基本保育シリーズ 17 障害児保育（中央法規出版）
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）
学生に対する評価	試験（50%）、レポート（30%）、授業内課題（20%）

8. 教育実践に関する科目

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 4 単位	担当教員： 船田 鈴子・森川みゆき 担当形態：複数 実習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の概要	・教育実習について理論的な学びを踏まえ、乳児の生活や遊びの場面に関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。 ・実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 教育実習の意義を理解する。 (2) 各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際実践することができるための基礎を身につける。 1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意欲的に実習に参加することができる。 2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実に即して記録することができる。 3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容について理解している。 4) 幼教要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。		
授業方法			
【学外実習】教育実習の目的 ①幼児との生活を通して、幼児を理解する。 ②授業で学んだことと実践との統合を図る。 ③幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。 ④具体的な指導技術を習得する。 ⑤幼稚園教諭としての自覚をもつ。 以上の項目について 2 年次前期に 2 週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2 年次後期に 2 週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。 原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。			

【事前指導】 実習を円滑に行うために以下の通り事前指導を行う。
【授業計画】
前期（1年次） 第1回：幼稚園教育の現状と課題 第2回：教育実習の概要 第3回：教育実習の目的と方法 第4回：教育実習の内容とねらい 第5回：幼児理解（ビデオより現場の観察と考察①） 第6回：幼稚園の教育課程と指導計画 第7回：実習記録の目的と必要性 第8回：指導案の目的と指導案作成のプロセス 第9回：見学、観察実習のねらいと方法 第10回：参加実習のねらいと方法 第11回：責任（部分・全日）実習のねらいと方法 第12回：オリエンテーションの方法と手続き 第13回：実習中の心構えと手続きについて 第14回：実習中に予想される問題について 第15回：幼稚園の実際：先輩教諭による講演「幼稚園教諭の一日」・まとめ
後期（1年次） 第1回：実習に向けての心構え 第2回：オリエンテーションの準備 第3回：実習に必要となる具体的な書類、持ち物等の準備 第4回：実習生に求められる幼児との適切な関わり方① 第5回：実習生に求められる幼児との適切な関わり方② 第6回：保育観察の方法（実例を通して―①） 第7回：保育観察の方法（実例を通して―②） 第8回：実習日誌の意義と必要性 第9回：実習日誌の具体的な取り方① 第10回：実習日誌の具体的な取り方② 第11回：実習日誌の具体的な取り方③ 第12回：指導案の意義と実際 第13回：指導案の立て方（部分） 第14回：指導案の立て方（全日） 第15回：教育実習を終えた先輩（2年生）の実習体験談を聞く→グループ討論 試験

テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考書資料等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験（40%）から総合的に評価

9. 保育実習

授業科目名： 保育実習指導Ⅰ		単位数： 2 単位	担当教員：石井 久美子
			担当形態：単独 演習
科 目	保育実習		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習の意義や目的について理解する。また、実習をするために必要な知識や技術を習得し、自己課題を明確にすることを目標とする。		
授業の概要	保育実習の意義や目的について学ぶ。また、児童福祉施設の種別、それぞれの施設の機能や役割についてなど総合的に理解する。さらに、実習生としてのふさわしい心構えや態度、保育士としての職務内容、専門性について理解を深めていく。		
授業計画			
第1回：授業ガイダンス、保育実習Ⅰの意義と目的			
第2回：保育実習の種類／保育所について			
第3回：保育実習の方法及び内容			
第4回：保育実習の心構え／映像資料①			
第5回：保育実習の実際／映像資料②			
第6回：保育所のデイリープログラム			
第7回：プライバシーの保護と守秘義務（職業倫理について理解する）			
第8回：ボランティア活動について			
第9回：実習日誌の意義／実習日誌の書き方①基本的な日誌記録のあり方			
第10回：実習日誌の書き方②多様な日誌記録のあり方			
第11回：指導案の書き方			
第12回：自己課題の発見／実習書類準備（次の実習目標を明らかにする）			
第13回：実習学内オリエンテーション／実習書類準備			
第14回：実習先オリエンテーションについて			
第15回：まとめ			

授業計画	
第 16 回：授業ガイダンス、施設実習の意義と目的 第 17 回：施設実習の種類／児童福祉施設について 第 18 回：施設実習の方法及び内容 第 19 回：施設実習の心構え／映像資料① 第 20 回：施設実習の実際／映像資料② 第 21 回：施設実習の基本的理解 第 22 回：児童福祉施設のデイリープログラム 第 23 回：プライバシーの保護と守秘義務 第 24 回：ボランティア活動について 第 25 回：実習日誌の意義／実習日誌の書き方① 第 26 回：実習日誌の書き方② 第 27 回：指導案の書き方 第 28 回：自己課題の発見（保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善） 第 29 回：実習学内オリエンテーション／実習事前指導 第 30 回：まとめ 定期試験	
テキスト	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版）
参考書・ 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布
学生に対する評価	試験（60%）、受講態度・課題提出（40%）の総合評価

2年生

1. 教養科目

授業科目名： 情報機器の操作	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：佐伯 慶太郎
			担当形態：単独 演習
科 目	教養科目-情報機器の操作		
授業の到達目標 及びテーマ	高度情報通信社会における情報モラルを身に付け、パソコンの基本操作を習得する。		
授業の概要	情報モラルについて学び、ワード、エクセル、インターネット、パワーポイントの基本的な操作方法を実習する。		
授業計画			
第 1 回：情報モラル、各パソコンの ID・パスワード等の初期設定、コンピュータ教室での使用方法			
第 2 回：タイピング練習			
第 3 回：ワード①かんたんなおたよりを作成しよう 1			
第 4 回：ワード②かんたんなおたよりを作成しよう 2			
第 5 回：ワード③かんたんなおたよりを作成しよう 3			
第 6 回：ワード④図表が入ったおたよりを作成しよう 1			
第 7 回：ワード⑤図表が入ったおたよりを作成しよう 2			
第 8 回：ワード⑥図表が入ったおたよりを作成しよう 3			
第 9 回：ワード⑦図表が入ったおたよりを時間で完成させよう			
第 10 回：ワード⑧図表が入ったおたよりの課題を時間で完成させよう			
第 11 回：エクセル① 作表とかんたんな表計算をしよう 1			
第 12 回：エクセル② 作表とかんたんな表計算をしよう 2			
第 13 回：エクセル③ 作表とかんたんな表計算をしよう 3			
第 14 回：エクセル④ 作表とかんたんな表計算をしよう 4			
第 15 回：エクセル⑤ 作表とかんたんな表計算を時間で保存し完成させよう			
まとめ			

授業計画	
第 16 回：エクセル⑥ 作表とかんたんな表計算を時間で保存し完成させよう 第 17 回：エクセル⑦ かんたんな表とグラフを作成しよう 第 18 回：エクセル⑧ グラフの課題を学習しよう 第 19 回：エクセル⑨ かんたんなグラフの課題を時間で保存し完成させよう 第 20 回：プレゼンテーション① スライドの作成をしよう① 第 21 回：プレゼンテーション② スライドの作成をしよう② 第 22 回：プレゼンテーション③ 課題のスライドを作成しよう 1 第 23 回：プレゼンテーション④ 課題のスライドを作成しよう 2 第 24 回：プレゼンテーション⑤ 課題のスライドを作成しよう 3 第 25 回：プレゼンテーション⑥ 課題のスライドを作成しよう 4 第 26 回：プレゼンテーション⑦ 発表 1 第 27 回：プレゼンテーション⑧ 発表 2 第 28 回：プレゼンテーション⑨ 発表 3 第 29 回：プレゼンテーション⑩ 発表 4 第 30 回：プレゼンテーション⑪ 課題提出 定期試験	
テキスト	保育者のためのパソコン講座（萌文書林）
参考書 参考資料等	
学生に対する評価	授業中の提出物・課題・実技試験（70%）と発表（20%）出席(10%)での総合評価

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

授業科目名： 子どもと健康	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：丸山 東人 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1．領域「健康」について理解を深める。2．領域「健康」について、そのねらいと内容の関係性、意味について理解を深める。3．健康の基礎となる生活習慣の形成を育てるための援助のありかた、および援助の普遍性について理解する。		
授業の概要	子どもたちの健康、および健康の基礎となる生活習慣を育てるための方法論、実践論を事例および情報機器を用いて教授していく。乳児期のそれぞれの発達段階に基づき、健康の意味を自立する過程について学び、保育内容を構造する力を養う。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション この授業の意味について 第 2 回：保育の基本としての健康 第 3 回：領域「健康」のねらいと内容 第 4 回：教材研究 1（健康に関わる教材を情報機器を用いて理解する） 第 5 回：教材研究 2（健康に関わる教材の応用） 第 6 回：子どもの発達からみた健康 第 7 回：健康と身体表現との関係 第 8 回：基本的な生活習慣の形成 第 9 回：幼児の安全教育と危険について 第 10 回：乳幼児の体の発達の特徴 第 11 回：乳幼児の遊びからみた健康の意味 第 12 回：自立への展開 第 13 回：運動能力の課題（情報機器を用いて理解する） 第 14 回：生活のリズムからみた健康（情報機器を用いて理解する） 第 15 回：子どもの健康における現代的課題 定期試験			
テキスト	テキスト：浅見均・渡部かなえ「子どもと健康」大学図書出版、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60％）課題提出（20％）授業態度（20％）		

授業科目名： 子どもと音楽B	教員免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高田 伸枝・洞庭 容子 加藤 瑞恵・山崎 未貴 担当形態： クラス分け 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。ピアノ伴奏法の基礎知識を学ぶことによって効果的な活用方法を理解し保育現場で実践できる能力を培い、乳幼児の音楽活動に役立てることができる。領域「表現」において、子どもが経験し、身につけていく内容の関連性及び小学校の教科書等とのつながりを理解する。子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。コードネームを理解し、基本的なコードの使い方を習得し、子どもの歌の旋律に伴奏をつける技術を身につける。		
授業の概要	領域「表現」に示された育みたい資質能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。保育現場における音楽指導上必要なコードネームによるピアノ伴奏法を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力や方法を身につける。		
授業計画			
第 1 回：音階のしくみ 鍵盤図と五線譜の関係 和音について 第 2 回：主要 3 和音 CFG コード 第 3 回：ハ長調の主要 3 和音 CFGG ₇ コード 第 4 回：ハ長調 CFGG ₇ コードの曲を弾こう 第 5 回：イ短調の主要 3 和音 AmDmEE ₇ コード 第 6 回：イ短調 AmDmEE ₇ コードの曲を弾こう 第 7 回：長調コード、短調コードの関係性と理解 第 8 回：CFGG ₇ AmDmEE ₇ コードの曲を弾こう 第 9 回：さまざまな伴奏パターンを学ぶ 第 10 回：ト長調の主要 3 和音 GCD コード 第 11 回：ト長調 GCD のコードを弾こう 第 12 回：ヘ長調の主要 3 和音 FB _b C コード 第 13 回：ヘ長調 FB _b C コードの曲を弾こう 第 14 回さまざまな伴奏パターンを試す（自分でつける＆弾き歌い） 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	プリント教材		
参考書・ 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	実技試験（60％）授業態度（30％）小テスト（10％）		

授業科目名： 子どもと表現A	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：橘 政愛
			担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	自らの能力を高める力を身につけ、豊かな感性や表現力を養う。様々な楽器の個性を知り、簡易な楽器を用いて子どもの発達に即した演奏技術を習得する。協同で表現して協調性を持って臨めると同時に、その実践を通して保育の場における音楽表現活動について考えることができる。		
授業の概要	領域「表現」の中で音楽活動が果たす役割について学び、幼児の表現活動をどのようにしたら引き出せるかを考察していく。また、様々な音楽表現の活動体験を通して、創作活動へと展開し、グループで発表する。子どもの表現活動を支援するための音楽の基礎知識や技術を学び、豊かな感性と表現力を身につけることを目指す。		
授業計画			
第 1 回：ガイダンス 領域「表現」理解する			
第 2 回：簡単なリズム楽器から始め、正しい打楽器の知識を知り、音の楽しみ方を知る。			
第 3 回：楽器を使った活動①様々な楽器の基本演奏法を知り、良い音で奏でることで豊かな感性を身につける。			
第 4 回：楽器を使った活動② 子どもの発達段階に合わせた楽器の使い方を身につける			
第 5 回：楽器を使った活動③ 単独奏から分担奏まで合奏の基本を知り、幅広く対応できるようにする。			
第 6 回：子どもの遊びや生活を豊かに育むための音楽活動について考える。			
第 7 回：歌い、動き、奏でる総合的な音楽表現についての判断力をつける。			
第 8 回：絵本や紙芝居の効果音に楽器や手作り楽器を使うことで表現力を高める。			
第 9 回：音楽遊びやリズムを中心とする指導法を考える（グループワーク）①課題提示と説明			
第 10 回：音楽遊びやリズムを中心とする指導法を考える(グループワーク)②指導法の考案と作成			
第 11 回：グループで音楽表現活動を創作する ①話し合いと計画、創作			
第 12 回：グループで音楽表現活動を創作する ②創作			
第 13 回：グループによる発表			
第 14 回：グループ発表について、よりよい活動にするための意見交換			
第 15 回：まとめ：保育現場における音楽活動について考察			
実技試験			
テキスト	2019 年改訂版「幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」 教育芸術社		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	実技試験（70%）、受講態度（30%）から総合的に評価する		

授業科目名： 子どもと表現B	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：堀内 有子
			担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育者に必要な造形表現の基礎を身につけ、発達段階や活動に合わせて適材を選べるようになる。自らの様々な造形活動を通して「造形嫌い」と「作る楽しさ」について理解し、子ども達の楽しい造形活動を支えられるようになる。乳幼児の造形活動で使われることの多い表現技法や素材の特性について指導者としての立場から検証し材料の工夫や指導上の留意点などを導きだせるようになる。		
授業の概要	領域「表現」の中で造形が果たす役割について学ぶ。造形表現の技術演習を行う。その中で、幼児の造形活動で使われることの多い表現方法や素材について、教材研究の視点を持って検証し、その指導について学びながら、子どもたちの楽しい造形活動を支えられる保育者となるための造形表現の基礎を身につける。		
授業計画			
第1回：幼児の遊びに活用できる折りがみについて 第2回：色について 第3回：折染とマーブリング 第4回：パステルとクレヨンとクレパス・・・スクラッチ 第5回：工作について 第6回：切り紙 第7回：立体カードの仕組み 第8回：バースデーカード 第9回：変身衣装作り 第10回：粘土について 第11回：油粘土 第12回：軽量粘土で作るスイーツ 第13回：紙段ボール工作①工作の構想・・・ミニチュアハウス 第14回：紙段ボール工作②工作の用具と環境・・・ミニチュアハウス 第15回：作る楽しさについて 定期試験			
テキスト	使用しない		
参考書 参考資料等	「保育をひらく造形表現」萌文書林、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	課題提出（85%）、受講態度（15%）による総合評価		

授業科目名： 保育内容(健康)の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：丸山 東人 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	グループディスカッションや映像等を活用して健康な身体と心を育て、健康な生活を作り出していく知識や技術を身につける。実践の場における具体的な健康指導について保育を構想する方法を身につけ実践力を高める。子どもの運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導法を身につける。		
授業の概要	子どもたちの健康に関して模擬保育、グループ討議や情報機器などを活用し、方法論、実践論を具体的事例を通して考察していく。そのことにより幼児期のそれぞれの遊びを通した身体活動、食育、安全性などについての実践力を身につける。		
授業計画			
第1回：オリエンテーション この授業の意味について 第2回：幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容の全体構造を理解する。 第3回：基本的生活習慣の確立について：どのようなかわりかた方をすれば食事、排泄、着脱衣、清潔の確立が育まれるかグループ毎に討議しまとめ、具体的な保育現場を想定した援助方法について理解する。 第4回：遊びを通した身体活動について：事例に沿ってグループ討議し、まとめたことをポスターセッションする。 第5回：身体活動としての遊びの保育の実践（指導計画立案） 第6回：身体活動としての遊びの保育の実践（模擬保育） 第7回：身体活動としての遊びの保育の実践（模擬保育の振り返り） （振り返りを通して保育を改善する視点を身につけると共に、幼稚園教育における評価の考え方を理解する。） 第8回：健康管理と安全能力を育む方法を中心とした援助のあり方についてグループ討議 第9回：安全管理に関連した模擬保育の実践（振り返りと対応策：記録したデータや教材を活用し、保育を改善する視点やどのように安全へ配慮を行ったらよいか等の確認をし合ったりして対話的・協同的な学びを行う。） 第10回：情報機器や安全管理に関した教材を用いた模擬保育の実践 第11回：模擬保育の実践（振り返りと対応策：記録したデータや教材を活用し、保育を改善する視点やどのように安全への配慮を行ったらよいか等の確認をし合ったりして対話的・協同的な学びを行う。） 第12回：子どもの健康な心と体を育む環境（実際に環境図を構成する。） 第13回：食育に関する取組の実践について（グループ討議後、子どもの食育に関する映像（お弁当）資料を作成し、ICTを利活用する。） 第14回：運動遊びを中心とした指導のあり方と実際（個人課題提出後、グループ協議しグループとしてまとめたものを発表し理解を深める。） 第15回：領域「健康」をめぐる現代的課題 定期試験			
テキスト	浅見均・渡部かなえ「子どもと健康」大学図書出版、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼稚園連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60％）課題提出（20％）授業態度（20％）		

授業科目名： 保育内容(環境)の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	環境への豊かなかかわりを育むための具体的な指導場面においての留意点を理解し、保育を構想する方法を身につける。保育者の役割について理解するとともに、環境整備の充実や効果的な方法など環境構成の仕方について映像資料や具体的な実践例を通して理解を深める。模擬保育を実践し、振り返りを通して改善点に気づき、保育を構成する力を身につける。		
授業の概要	授業の概要：乳幼児を取り巻く環境や課題を踏まえた上で、領域「環境」のねらいや内容に関連づけながら乳幼児と環境とのかかわりについて理解を深める。乳幼児の興味や関心について理解し、具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法や発達に即した計画のあり方について実践力を身につける。		
授業計画			
第 1 回：幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらい及び内容について理解する			
第 2 回：子どもの発達と「環境」について（幼児期にふさわしい環境について実際の環境を撮影した資料を見ながらまとめポスターセッションする）			
第 3 回：固定遊具・移動遊具の園内環境について （固定遊具や移動遊具の配置及びそれらの遊具の意義について知り、環境構成のあり方を学ぶ）			
第 4 回：身近な環境の中での子どもの遊び（子どもの喜ぶ遊びや活動はどのような環境の中から生まれるのかを子どもの実態や事例に沿って対話的・協同的に検討し、遊びのガイドブックを作成する）			
第 5 回：自然・植物を取り入れた保育の実際（指導計画立案）			
第 6 回：自然・植物を取り入れた保育の実際 （模擬保育・・・自然物の葉や実等を使用したおもちゃ作りや作った物を使っての遊び方の実践）			
第 7 回：自然・植物を取り入れた保育の振り返り （模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける）			
第 8 回：飼育物などに触れる保育の実際（園で飼育している動物を ICT を使って子どもが描き、描いたものを活用した飼育のあり方等を知る保育の実践を行う）			
第 9 回：文字や標識とのかかわり（子どもの周りにある文字や標識の作成において、子どもが ICT を利用しながら色や形の違いに気づくような保育の実践を行う）			
第 10 回：数量や図形とのかかわり（園生活での活動や折り紙などの教材を通して、子どもたちが数量や図形に気がついていく過程について知る）			
第 11 回：子どもの生活にかかわる行事とのかかわり（園内外の行動を通して、子どもにとって身近で親しみのある行動についてディスカッションし、行事ごとの説明資料を作成する）			
第 12 回：身近な社会とのかかわり（子どもが訪問可能な施設を選択し、その施設の特性や役割について理解し、園外保育につなげていく方法を学ぶ）			
第 13 回：園庭・園外保育の環境 （事前調査を行った上で、利用・使用方法を取り入れたガイドブックの作成をする）			
第 14 回：安全な保育環境の立案（事故や安全に関する具体的な事例を通して、子どもの安全な保育環境についてグループごとに討議し合い、指導案を立案する）			
第 15 回：まとめ～環境を通して行う保育と現代的課題～			
定期試験			

テキスト	保育実践を生かす保育内容 「環境」(保育出版社)
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」(平成 29 年度告示) 厚生労働省「保育所保育指針」(平成 29 年度告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」(平成 29 年度告示)
学生に対する評価	試験 (60%)、課題提出 (20%)、受講態度 (20%) の総合評価

授業科目名： 保育内容（表現） の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について理解をしたうえで、領域「表現」に関わる具体的な指導場면을想定した保育を構想し、実践する力を身につける。		
授業の概要	子どもがより豊かに表現活動を楽しむのに保育者としてどのような指導、援助が必要からあらゆる場면을想定して計画し、実践する。		
授業計画			
第 1 回：領域「表現」について			
第 2 回：指導案の書き方			
第 3 回：造形表現の実践について（ごっこ遊び）			
第 4 回：指導案作成①（個別）			
第 5 回：指導案作成②（グループ）			
第 6 回：表現活動に向けた準備（ごっこ遊び）			
第 7 回：模擬保育①（ごっこ遊び）			
第 8 回：模擬保育②（ごっこ遊び）			
第 9 回：模擬保育③（ごっこ遊び）			
第 10 回：身体表現の実践について（創作ダンス）			
第 11 回：グループワーク①（ダンス創作：大枠）			
第 12 回：グループワーク②（ダンス創作：細部）			
第 13 回：グループワーク③（指導案作成）			
第 14 回：模擬保育④（創作ダンス）			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	保育内容 要領 表現（わかば社）		
参考書 参考資料等	プリント教材		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

3. 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目名： 子ども社会学	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：五十嵐 淳子 担当形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域の連携及び学校安全の対応を含む。）		
授業の到達目標 及びテーマ	変わりゆく社会の状況を理解し学校教育への影響や課題及び対応策について理解する。学校と行政機関との連携、協働のあり方や重要性について学ぶ。学校や教育行政機関の目的やその現実のための学校経営の姿勢を理解し、開かれた学校づくりの必要性和課題、安全教育の重要性について基礎的な知識を身に付ける。		
授業の概要	子どもを取り巻く現代社会の課題を踏まえ、子どもの指導上の課題について把握する。学校と地域との連携、協働のあり方を事例を通して理解する。学校の教育活動の流れや学習評価についての基礎的な理論を学ぶ。学校の危機管理体制や事故対応などについての具体的な取り組みにも触れる。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方、子どもと社会について 第 2 回：諸外国の教育改革の動向 第 3 回：子どもを取り巻く学校の現状 第 4 回：子どもの生活の変容について～映像を通して考える～ 第 5 回：地域の連携・協働による学校教育活動の事例 第 6 回：地域に開かれ学校を目指した事例 第 7 回：学校の教育活動と年間の流れ 第 8 回：学校評価と PDCA サイクル 第 9 回：学校における安全管理と危機管理 第 10 回：教職員と外部の関係機関との連携のあり方 第 11 回：学級経営と教師の役割 第 12 回：生活安全、交通安全、災害安全、を踏まえた安全上の課題 第 13 回：事故や災害に対する学校の危機管理体制の在り方と対応策 第 14 回：地域との連携と協働の意義と方法～事例を通して映像から学ぶ～ 第 15 回：まとめ～これからの学校の教育指導と対応策～ 定期試験			
テキスト	五十嵐 淳子「海外研修ハンドブック」大学図書出版 五十嵐 淳子「多文化理解・国際理解・多様性の尊重を目指して」 大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40％）、受講態度（10％）、課題提出（10％）、発表（50％）		

授業科目名： 教育・保育の心理学	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：早川 貴子
			担当形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの発達を理解することの意義に触れ、発達過程を学ぶ。また、子どもの学びを支える理論として、学習、動機付け、社会性、情動など保育や教育に必要な心理学的知識について習得する。		
授業の概要	(1) 子どもの発達の基礎を学習する。 1) 情動の発達について理解する。 2) 社会性の発達について理解する。 3) 身体・運動機能の発達について学ぶ。 4) 自己の発達について学ぶ。 (2) 子どもの学びと保育について学ぶ。 1) 子どもの遊びについて考察する。 2) 子どもの学びを支える保育につて考える。 (3) 教育に必要な基礎知識を学ぶ 1) 学習の基礎とその理論について学ぶ 2) 学習の動機付けについて学ぶ。 3) 学習の過程について学ぶ。		
授業計画			
第 1 回： 教育と保育の心理学 第 2 回： 子どもの発達過程（1）情動 第 3 回： 子どもの発達過程（2）幼児の社会性 第 4 回： 子どもの発達過程（3）児童以降の社会性 第 5 回： 子どもの発達過程（4）道徳・規範の認識 第 6 回： 子どもの発達過程（5）身体・運動機能の発達 第 7 回： 子どもの発達過程（6）自己の芽生え 第 8 回： 子どもの学びと保育（1）遊び 第 9 回： 子どもの学びの保育（2）遊び 第 10 回： 子どもの学びと保育（3）子どもの学びを支える保育 第 11 回： 教育心理学（1）学習行動の基礎とその理論 第 12 回： 教育心理学（2）学習の動機付け 第 13 回： 教育心理学（3）学びの過程と特徴 第 14 回： 教育心理学（4）保育に生かす教育心理学 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト			
参考書 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（10%）、試験（90%）、から総合的に評価する。		

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：五十嵐 淳子
			担当形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	現代の特別支援教育が抱える諸問題について理解することを目的とする。現代の特別支援教育が抱える課題について事例を交えながら理解を深め、説明することができる。特別に支援が必要な子どもや児童の発達の特性について理解する。特別な支援を必要とする子どもの支援方法について理解する。		
授業の概要	特別支援教育の基礎知識と考え方を踏まえ、現代社会における教育のあり方や特別な支援が必要な子どもに対しての学級担任の役割や支援方法に対する理解を深め、教育の質ということに視点を置いた授業を行う。支援が必要な子どもに対しての支援方法に対する理解を深め、特別な教育的ニーズにある子どもの状況を知り支援方法を学ぶ。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション～インクルシブ教育とは～ 第 2 回：発達障害、軽度知的障害の幼児、児童の支援 第 3 回：視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由などの様々な障害について 第 4 回：気になる子ども・児童への支援方法～映像を通して～ 第 5 回：進級による指導と自立行動 第 6 回：特別な支援を必要とする子どもの学習困難と生活困難について 第 7 回：インクルーシブ教育と統合教育 第 8 回：特別な支援が必要な子どもへの支援方法の実際～事例を通して学ぶ～ 第 9 回：特別支援教育における個別指導計画の立案 第 10 回：特別支援教育における個別教育支援計画の立案 第 11 回：特別な教育的ニーズが必要な子どもへの支援 第 12 回：子どもの貧困の問題について考えるグループ活動を通して～ 第 13 回：家庭と連携、地域との連携～特別支援教育のコーディネーター、関係機関との連携～ 第 14 回：外国籍の子どもの支援の実際 第 15 回：現代の特別支援教育の問題と課題 定期試験			
テキスト	著者：杉野 学 「特別支援教育概論」 大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（50%）、課題提出（10%）、受講態度（10%）小テスト（30%）		

4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目名： 幼児教育方法論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：田口 賢太郎
			担当形態：単独 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	講義をもとに VTR などを用いつつ、幼児教育の保育方法について学ぶ。		
授業の概要	本校儀は幼児教育・保育の基本的な方法について理解するため、次の 4 点を目標とする。 1. 保育のねらいを達成するために必要な指導および援助方法の基本を理解する。 2. 様々な保育形態の特質を把握し、「環境を通して」行われるそれぞれの保育実践に相応しいケースと方法の適切性を理解する。 3. 子どもの発達と個別の姿を踏まえ、遊びとその援助について、方法の基礎を理解し実践的応用の仕方を提案することができる。 4. 幼稚園におけるコンピュータ活用の実際について理解し、具体的な場面で活かすための実際例を提示することができる。		
授業計画			
第 1 回：イントロダクション：講義概要の説明、授業の方法、入門的な保育学方法の話題提示			
第 2 回：保育とは何か？方法を巡って			
第 3 回：保育方法の前提 1 保育の仕組み独自性、「教育」・「授業」との違い			
第 4 回：保育方法の前提 2 「環境」について知る			
第 5 回：保育方法の前提 3 「遊ぶ」をさまざまな形で捉えなおす			
第 6 回：保育方法の実践 1 集団保育と個別の対応			
第 7 回：保育方法の実践 2 保育形態論			
第 8 回：保育方法の実践 3 年齢とケースに応じた保育のあり方			
第 9 回：保育方法の実践 4 子どもの発達を捉える			
第 10 回：保育方法の実践 5 実践と反省について PDCA サイクル			
第 11 回：保育方法の実践 6 配慮を要する子どもへの保育の事例			
第 12 回：メディアの利用と保育 1 メディア利活用のメリット・デメリット			
第 13 回：メディアの利用と保育 2 メディア利活用の事例研究①アプリ開発			
第 14 回：メディアの利用と保育 3 メディア利活用の事例研究②メディアリテラシー			
第 15 回：まとめ、保育方法という考えかた			
定期試験			
テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	小テスト（70%）、学習参加態度（20%）、課題提出（10%）を定期試験に替え、総合的に評価する。		

授業科目名： 教育相談	教員免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高田 伸枝
			担当形態：単独 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法		
授業の到達目標 及びテーマ	・保育相談の重要性を理解し、教育相談に必要な知識や技術を習得する。 ・教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎理論を学ぶ。 ・子どもや保護者をめぐる多様な課題を多面的に理解するとともに、適切な 支援方法を学ぶ。 ・幼児にみられる具体的な問題についての知見を深め、特別な配慮が必要な 発達障害等についても理解を深める。		
授業の概要	保育現場において保育者は、子ども達や保育者・地域からの相談に応じる ことが求められるようになってきている。 教育相談の意義や目的を理解し、教育相談の知見から保育の実践者として 不可欠な知識、技術について学習、習得する。		
授業計画			
第 1 回：教育相談の在り方			
第 2 回：保育所・幼稚園における教育相談			
第 3 回：乳児期の発達理解と相談・支援			
第 4 回：乳児期・学童期・思春期の発達理解と相談・支援			
第 5 回：保護者への対応			
第 6 回：子育て支援			
第 7 回：発達障害① LD 学習障害 特徴とその支援			
第 8 回：発達障害② ADHD 注意欠如多動症 特徴とその支援			
第 9 回：発達障害③ 自閉症スペクトラム症 特徴とその支援			
第 10 回：発達障害を持つ子どもの保護者へのかかわり			
第 11 回：子どもの発達とアセスメント			
第 12 回：カウンセリングの基礎理論			
第 13 回：カウンセリングの基本事項			
第 14 回：カウンセリングの技法			
第 15 回：ふりかえりまとめ			

授業計画	
第 16 回：保育におけるコンサルテーション 第 17 回：人的資源・社会的資源との連携 第 18 回：保育者の相談活動 第 19 回：教育相談を介した園内・園外との連携 第 20 回：体験学習・実習観察報告書作成 第 21 回：体験学習・実習観察報告発表 ①相談支援について 第 22 回：体験学習・実習観察報告発表 ②発達障害及び気になる子どもについて 第 23 回：対人関係のトレーニング ①基礎的対人関係とは 第 24 回：対人関係のトレーニング ②トレーニングの実践 第 25 回：幼児・児童における諸問題 ①習癖 第 26 回：幼児・児童における諸問題 ②不登校・いじめ 第 27 回：幼児・児童における諸問題 ③虐待・ネグレクト 第 28 回：事例検討 保護者からの相談 ①子育ての悩み 第 29 回：事例検討 保護者からの相談 ②就学に向けて 第 30 回：まとめ 定期試験	
テキスト	子どもの理解と保育・教育相談（株式会社みらい） はじめて学ぶ発達心理学 乳幼児を中心に（大学図書出版）
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
学生に対する評価	授業態度・課題提出（40%）、試験（60%）からの総合的に評価する。

5. 教育実践に関する科目

授業科目名： 教育実習事前事後指導	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			担当形態：単独 演習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	教育実習の意義や目的について理解し、実習で取り組むべき目標を明確にする。また、実習後の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら保育者として必要な知識や能力を身につける。		
授業の概要	教育実習の事前事後指導を行う。事前指導では、実習に臨むにあたって必要とされる基本的な心構えや態度、実習日誌及び指導案の書き方について理解を深める。事後指導では、実習の振り返りを通して今後の課題を明確化したうえでその克服に向けた行動計画を立てる。		
授業計画			
第 1 回：教育実習の意義と目的			
第 2 回：教育実習の基本的事項の理解			
第 3 回：教育実習に向けた心構え			
第 4 回：実習日誌の意義と目的			
第 5 回：実習日誌の書き方			
第 6 回：事前指導（実習目標の設定）			
第 7 回：事前指導（実習に向けた個別の準備）			
第 8 回：指導案の意義と目的			
第 9 回：指導案の書き方			
第 10 回：事後指導（提出物等のまとめ）			
第 11 回：事後指導（実習の振り返り：個別）			
第 12 回：事後指導（実習の振り返り：グループワーク）			
第 13 回：事後指導（個別課題の設定）			
第 14 回：事後指導（今後の活動計画の立案）			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	プリント教材		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 4 単位	担当教員： 船田 鈴子・森川みゆき
			担当形態：複数 演習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の概要	・教育実習について理論的な学びを踏まえ、乳児の生活や遊びの場面に関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。 ・実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 教育実習の意義を理解する。 (2) 各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際実践することができるための基礎を身につける。 1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意欲的に実習に参加することができる。 2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実即して記録することができる。 3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容について理解している。 4) 幼教要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。		
授業方法			
【学外実習】教育実習の目的 ①幼児との生活を通して、幼児を理解する。 ②授業で学んだことと実践との統合を図る。 ③幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。 ④具体的な指導技術を習得する。 ⑤幼稚園教諭としての自覚をもつ。 以上の項目について 2 年次前期に 2 週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2 年次後期に 2 週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。 原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。			
【事前、事後指導】 実習を円滑に行うために以下の通り、事前、事後指導を行う。			

【授業計画】
前期（2年次）
第1回：教育実習の要点の確認 第2回：本実習に向けての心構えと準備 第3回：教育実習の理解 第4回：教育実習Ⅰ（本実習）指定された園にて実習（2週間） 第5回：実習を終えて（振り返りが意味すること） 第6回：実習全体の自己評価（個別指導） 第7回：実習の反省と学び① 個々の反省と課題と発見 第8回：実習の反省と学び② 園の役割や教育の特長 第9回：実習の反省と学び③ 子どもとの関わりや保育技術 第10回：実習の反省と学び④ グループでの話し合い 第11回：実習中に多い悩みや疑問について①グループで話し合い 第12回：実習中に多い悩みや疑問について②発表、まとめ 第13回：実習の振り返りと自己評価 第14回：教育実習Ⅱに向けての自己課題について（個人面接） 第15回授業のまとめ
後期（2年次）
第1回：本実習に向けての心構えと準備 第2回：責任実習に向けて（実習時期の園生活について） 第3回：教育実習Ⅱ（本実習）指定された園について実習（2週間） 第4回：実習を終えて（振り返りが意味すること）－（個別指導） 第5回：実習全体の自己評価－（個別指導） 第6回：実習の反省と学び①個人の反省と課題 第7回：実習の反省と学び②実習記録や指導案の書き方の確認（個別の実習記録、指導案を使って） →グループ討議 第8回：実習の反省と学び③子どもとの関わりや保育技術の確認（事例を通して）→グループ討議 第9回：実習の反省と学びのまとめ（グループ毎に発表） 第10回：実習の振り返りと自己評価①ワークシート 第11回：実習の振り返りと自己評価②個人面接 第12回：教育実習Ⅰ、Ⅱ（2回の本実習）を通しての学びと今後の課題 第13回：実習報告会の準備（原稿作り） 第14回：実習報告会（1年生も参加） 第15回：授業のまとめ 定期試験

テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 保育者養成実習事前事後学習（大学図書出版） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考資料等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験（40%） から総合的に評価

授業科目名： 保育・教職実践演習	教員の免許取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員：船田 鈴子	
					担当形態：単独 演習	
科 目	教育実践に関する科目					
履修時期	2 年次前後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○	
受講者数	45 人					
教員の連携・協力体制	個人及びGでの模擬授業の実践を取り入れたり、受講者をグループ分けしたりしながら子どもの育ち学びを支援するための知識・技術の向上を目指すために 5 人の教員でグループ毎に研究指導する。					
授業の到達目標 及びテーマ	(1)保育者として身につけるべき資質能力とは何かを明確に理解する。 (2)保育に関する諸問題についてあらゆる角度から分析し、その問題を解決するための方策を提案したり実践する。 1) 保育者として必要な資質能力について理解している。 2) 自らの課題を発見し、解決に向けて行動できる。 3) 保育に関する諸問題を多面的に捉えることができる。 4) 保育者として必要な資質能力を習得している					
授業の概要	・ 学生が身に付けた資質能力が保育者として最小限必要な実践的指導力として有機的に統合され、形成されたかについて確認をする。この科目を履修するまでに履修科目の状況を踏まえて、教職に就く者として、の身に付けるべき必要な力や、自己課題を発見し、課題解決に励み、即実践力としての力量を高める。 ・ 保育に関わる諸問題を整理しながら、それぞれの問題への総合的理解を深めるために、受講生全員自らが取り上げる課題について、調査、分析、考察、検討を加え、問題解決能力を身につける、さらに、そのような研究の成果を論文としてまとめたり、研究発表したりすることで、総合的な学びの方法論を習得する。					
補 完 指 導	履修カルテを参照し、個別に補完的な指導を行う。					
授業計画						
第 1 回：保育・教職実践演習の進め方及びこれまでの学修の振り返り 第 2 回：教職の意識と役割及び職務内容についての確認 第 3 回：保育に関わる諸問題の整理（1）ブレイン・ストーミング 第 4 回：保育に関わる諸問題の整理（2）ロールプレイング 第 5 回：保育に関わる諸問題の整理（3）ディスカッション(問題構造の理解) 第 6 回：保育に関わる問題の研究（1）保育に関わる問題を探究することの意義について講義						

授業計画	
第 7 回：保育に関わる問題の研究（2）研究テーマの選定方法について講義・グループ討論 第 8 回：保育に関わる問題の研究（3）研究テーマの類型化毎にグループ討論① 第 9 回：保育に関わる問題の研究（4）研究テーマの類型化毎にグループ討論② 第 10 回：保育者に求められる基本的技能・資質についてのグループ討論 第 11 回：模擬授業 第 12 回：模擬授業 第 13 回：保育者として必要な知識技能の確認 第 14 回：前期のまとめ 第 15 回：前期の当該科目の学修の確認 第 16 回：幼稚園教諭による講演「幼稚園教諭の生活と実際」 第 17 回：豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力について グループ討論 第 18 回：豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力について グループ討論 第 19 回：幼児理解の確認(1)・・・グループに分かれて事例研究・討論① 第 20 回：幼児理解の確認(2)・・・グループに分かれれ事例研究・討論② 第 21 回：幼児理解の確認(3)・・・グループ毎に事例研究の結果についてまとめ発表 第 22 回：幼稚園教諭の職務内容についてグループ討論・ロールプレイング 第 23 回：相談活動（子育て支援）についてグループ討論・ロールプレイング 第 24 回：保育に関連する諸問題から個々の研究テーマを選定し、研究を深め論文ちとしてまとめる 第 25 回：研究発表 第 26 回：研究発表 第 27 回：研究発表 第 28 回：研究発表 第 29 回：研究発表 第 30 回：まとめ・保育・教職実践演習の総合所感	
テキスト	アカデミック・スキルズ（慶応義塾大学出版会） 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
参考書・ 参考資料等	最新保育資料集 2011（ミネルヴァ書房）
学生に対する評価	受講態度、補完指導、グループ討論、実技指導、授業中に課する各種課題、研究論文の内容および発表等を踏まえ、保育者として最小限必要な資質、能力が身についているかを確認し総合評価を行う。

6. 保育の本質・目的に関する科目

授業科目名： 社会福祉		単位数： 2 単位	担当教員：山口 稜弘
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	社会福祉について理解を深める。 1．保育士として課題を発見し、解決する力を身につける。 2．社会福祉の基礎を学ぶ。		
授業の概要	1 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3 社会福祉における相談援助について理解する。 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5 社会福祉の動向と課題について理解する。		
授業計画			
第 1 回：社会福祉の理念と概念① 第 2 回：社会福祉の理念と概念② 第 3 回：子どもの権利 第 4 回：子ども家庭支援と社会福祉① 第 5 回：子ども家庭支援と社会福祉② 第 6 回：社会福祉の歴史的変遷 第 7 回：子ども家庭福祉の歴史的変遷 第 8 回：子ども家庭福祉の現状 第 9 回：社会福祉の制度と実施体系① 第 10 回：社会福祉の制度と実施体系② 第 11 回：社会福祉の制度と実施体系③ 第 12 回：相談援助の理論 第 13 回：相談援助の対象と過程 第 14 回：相談援助の方法と技術 第 15 回：テスト 定期試験（筆記）			
テキスト	著者名：公益財団法人児童育成協会＝監修 松本 康雄、坪 洋一、金子 允「基本保育シリーズ④ 社会福祉」中央法規		
参考書 参考資料等	ミネルヴァ書房 新・基礎からの社会福祉 7 子ども家庭福祉		
学生に対する評価	授業への参加態度（20％）レポート（30％）期末試験（50％）		

授業科目名： 子ども家庭支援論		単位数： 2 単位	担当教員：新海 智子
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 家庭、家族とは何か 家族の機能について理解する。 1) 家庭、家族とは何かについて学ぶ。 2) 家族支援の必要性について学ぶ。 (2) 子育て家庭を支える地域の社会資源や具体的な子育て支援の取り組みに関する知識を身につける。 1) 子育てを取り巻く環境としての家庭、地域社会の今日の状況や子育て上の問題について理解する。 2) 子育て家庭を支える資源や取り組みについて学ぶ。 (3) 社会的状況の変化をふまえ、求められる子育て支援のあり方について考える力を養う。 1) 保育者による家庭支援、子育て支援施策、次世代生育支援施策の推進について理解する。 2) 特別な配慮を要する家庭についての知識を得る。		
授業の概要	家庭、家族の概念や機能、現代の子育て家庭の状況など、家庭支援が必要となっている背景を学ぶ。その上で、家庭支援の社会資源や子育て支援の具体的な取り組みについて学び、具体的な家庭支援の理念や方法について学習する。		
授業計画			
第 1 回：家庭支援とは 第 2 回：家族・家庭とは 第 3 回：家族の発達 第 4 回：家庭支援の必要性 第 5 回：現代の家庭における人間関係 第 6 回：家庭生活を取り巻く社会的状況 第 7 回：特別の支援を必要とする家族とその支援① 第 8 回：特別の支援を必要とする家族とその支援② 第 9 回：特別の支援を必要とする家族とその支援③ 第 10 回：子育て家庭を支える社会資源 第 11 回：子育て支援政策、次世代育成支援施策の推進 第 12 回：保育者が行う家庭支援の原理 第 13 回：保育所入所による家庭支援 第 14 回：地域の子育て家庭への支援 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	児童の福祉を支える子ども家庭支援論（萌文書林）		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	授業態度（10%）、課題（40%）、試験（50%）から総合的に評価する。		

7. 保育の対象の理解に関する科目

授業科目名： 子どもの理解と援助		単位数： 1 単位	担当教員：早川 貴子
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	「子どもを理解する」こととはどのようなことなのか、子どもが見せてくれている姿勢、行為、育ちをどのように読み取り、理解するかについて学ぶ。それらの理解が保育者の子どもへの援助にどのような関係してくるのかについて考察を深める。		
授業の概要	(1) 子ども理解の意義と原理を学ぶ 1) 保育の始まりとしての子ども理解について学ぶ 2) 子どもを取り巻く環境について理解する。 3) 子ども理解における発達の観点を学ぶ 4) 子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインドについて理解する。 (2) 子ども理解と援助の方法を学ぶ。 1) 保育における観察と記録について理解する。 2) 記録に基づく保育カウンセリングについて学習する 3) 保育者理解と援助について理解する。		
授業計画			
第1回：保育における「子ども理解」とは① 第2回：保育における「子ども理解」とは② 第3回：子どもを取り巻く環境の理解① 第4回：子どもを取り巻く環境の理解② 第5回：子ども理解における発達の観点 第6回：保育者における観察と記録① 第7回：保育者における観察と記録② 第8回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド① 第9回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド② 第10回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド③ 第11回：記録に基づく保育カンファレス 第12回：特別なニーズの理解と援助 第13回：保護者理解と援助 第14回：子ども理解を深める保育とは 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト	新しい保育講座③子ども理解と援助 ミネルヴァ書房		
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（30%）、試験（70%）、から総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもの保健		単位数： 2 単位	担当教員：皆川　　まり
			担当形態：単独　講義
科　　目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 子どもの心身の健康と保健の意義を理解する。 (2) 子どもの身体発育・発達を理解する。 (3) 子どもの疾病と予防法、適切な対応について理解する。		
授業の概要	子どもの健康と保健井ついで理解する。子どもの発育・発達について理解する。子どもに多い疾患と事故について理解し、その対処方法について学ぶ。		
授業計画			
第1回：子どもの健康と保健の意義 第2回：子どもの発育と発達 第3回：子どもの発育と発達 第4回：子どもの発育と発達 第5回：子どもの発育と発達 第6回：子どもの発育と発達 第7回：健康と病気・異常 第8回：健康と病気・異常 第9回：健康と病気・異常 第10回：事故と応急処置 第11回：事故と応急処置 第12回：感染症と予防接種 第13回：乳幼児期の病気 第14回：乳幼児期の病気 第15回：乳幼児期の病気 定期試験			
テキスト	子どもの保健　診断と治療者		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	定期試験（50％）、授業態度（50％）からの総合的に評価する。		

8. 保育の内容・方法に関する科目

授業科目名： 社会的養護Ⅱ		単位数： 1 単位	担当教員名： 奥西 允
			担当形態： 単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ： 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解できるようになる。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できるようになる。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できるようになる。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できるようになる。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できるようになる。			
授業の概要： 社会的養護における子どもの生活や支援の実際について説明します。自立支援計画、治療的支援、自立支援の実践事例などについても解説し、社会的養護の現状や課題についても学びます。また、内容について話し合う機会を多く設けていきます。			
授業計画 第1回： イントロダクション：講義の概要や授業方法の説明 第2回： 子ども理解をふまえた社会的養護 第3回： 乳児院・児童養護施設の実施体系と実際 第4回： 福祉型障害児入所施設・福祉型児童発達支援センターでの施設養護の内容 第5回： 医療型障害児入所施設・医療型児童発達支援センターでの施設養護の内容 第6回： 母子生活支援施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設の実施体系と実際 第7回： 家庭養護の実施体系と実際 第8回： 自立支援計画の作成と活用事例 第9回： 日常生活支援に関する実践例 第10回： 治療的支援と療育的支援に関する実践事例 第11回： 自立支援に関する実践例 第12回： 記録の意義と実践 第13回： 保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用 第14回： ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用 第15回： 社会的養護の展望と課題 定期試験			
テキスト	上田征三編（2018）『実践研究や事例から学ぶ 社会的養護Ⅱ』大学図書出版		
参考書・参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（50%）、期末試験（50%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 子育て支援		単位数： 1 単位	担当教員：五十嵐 淳子
			担当形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	多様な保育ニーズを踏まえ、子育て支援の制度や体制について理解し、地域に根差した子育て支援のあり方：具体的な実践方法を身に付ける。		
授業の概要	地域に開かれた子育て支援の実際を知り、子育て支援の活動について理解する子育て支援の制度、体制の学習を踏まえ、子育て支援の実践例を見ながら具体的にイメージできるように理解を深める。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 家庭を取り巻く現代社会の状況			
第 2 回：子育て支援体制の整備			
第 3 回：保育現場における相談援助			
第 4 回：特別なニーズのある子どもの特性理解と子育て支援			
第 5 回：基本的生活習慣の自立に向けた子育て支援			
第 6 回：これからの子育てにおける食の問題			
第 7 回：子育て支援の実際を知る			
第 8 回：地域の子育て支援センター的役割			
第 9 回：子育て支援と世代間交流			
第 10 回：地域への子育て支援のあり方			
第 11 回：プログラム型子育て支援			
第 12 回：ノンプログラム型子育て支援			
第 13 回：地域とつながる子育て支援			
第 14 回：諸外国における子育て支援の現状			
第 15 回：子育て支援における地域の役割と今後の課題			
定期試験			
テキスト	著者：五十嵐 淳子・船田 鈴子「保育の学びを深める子育て支援の実際」大学図書出版		
参考書 参考資料等	五十嵐 淳子「地域とつながる子育て支援」 大学図書出版		
学生に対する評価	定期試験（40％）、課題提出（10％）、授業態度（10％）、発表（40％）		

9. 保育実習

授業科目名： 保育実習Ⅰ		単位数： 4 単位	担当教員： 石井 久美子・浅見 優哉
			担当形態：複数 実習
科 目	保育実習		
〈保育実習〉			担当：石井 久美子
授業の概要	実習生としての必要な基本的な学びを踏まえて、実習において理論と実践の統合を図れるようにする。また、乳幼児にかかわる上で必要な適切かつ具体的な支援方法・態度について学ぶ。		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習についての基本的な理論を踏まえ、保育士として必要な資質、知識や技術を習得することを目的とする。また、保育士としての職務内容・専門性について理解を深める。		
授業計画			
保育実習Ⅰの目的			
①保育の一日の流れを理解し、子どもの名前を覚え参加する。			
②事前に学習した子どもの発達を参考にして、実際に子どもの様子を見て、理解を深める。			
③保育士と子どもの関係を学ぶ。			
④子どもの活動に対して、様々な環境の中で具体的にどんな援助をしているのかを（食事や排泄・遊び・昼寝・着脱・清潔など）学ぶ。			
⑤誉めるとき、叱るとき、集中させるとき、子どもの要求に対するとき等、具体的にどのような態度、表情、言葉を掛けて援助しているかを学ぶ。			
⑥健康・安全・疾病予防への配慮について理解する。			
2 月に保育実習Ⅰ（観察・参加：12 日間、90 時間以上）を指定された園で行う。			
※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。			

〈施設実習〉		担当：浅見 優哉
授業の概要	実習は保育所以外の児童福祉施設（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、情緒障害児短期治療施設、重症心身障害児施設、児童自立支援施設等）で行う。	
授業の到達目標 及びテーマ	保育所とは違う種別の児童福祉施設において実習し、各々の施設の機能や社会的な役割、また施設保育士としての役割を理解する。	
授業計画		
施設実習の目的		
①実習先の施設の役割・機能について理解する。		
②一緒に行動したり業務を手伝ったりして具体的にその施設の児童へのかかわり方について学ぶ。		
③それぞれの施設の児童について正しく理解する。		
④児童福祉施設における保育士の役割・職務内容を理解する。		
⑤職種間連携やチームプレーが児童への育ちへどのようにつながっているのか理解する。		
3月～7月に保育所とは種別の違う施設において（観察、参加及び指導実習：12日間、90時間以上）、指定された園で行う。		
※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。		
テキスト	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版）	
参考書・ 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布	
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40％）、実習日誌の記録・実習園の評価（60％）から総合的に評価	

授業科目名： 保育実習Ⅱ		単位数： 2 単位	担当教員：石井 久美子
			担当形態：単独 実習
科 目	専門教育科目（保育実習）		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の実際にかかわりながら、理論と実践の統合を深めていく。子どもの姿や実態、保育者の支援方法などをよく観察し、実際に保育指導計画を立案して責任実習を行う。保育実習Ⅱは原則として保育実習Ⅰとは異なる園で行う。		
授業の概要	保育実習Ⅰでの保育実践経験を踏まえて、更なる知識や技術の向上の努力に努め、保育者に必要な資質や能力の向上を目指す。また、職員間や保護者・地域との連携、子育て支援、安全管理などについて実践的学び、保育所の多様な機能や役割についての理解を深める。		
授業計画			
保育実習Ⅱの目的			
①子どもの名前を覚え、積極的に遊びの仲間に入り、ありのままの子どもの姿を知り、子どもを理解する。			
②健康、安全のため環境、整備を子どもの具体的な活動（食事、排泄、昼寝、着脱、清潔、遊び）との関連で学ぶ。			
③基本的な生活習慣や社会的習慣の指導について、各々の場面に合った指導の仕方を学び、保育士として必要な資質、能力を養う。			
④園の指導計画（年間計画・月案）などを把握し、やってみたい内容を考えたうえで担当者と相談し、ねらい、場面の構成、留意点を考えて指導案を作成し、実施・評価を受ける（事前に担当者の助言、指導を必ず受ける）。			
⑤施設の許可があれば調理室の実習を行う。			
⑥家庭と地域の実態にふれ、支援や連携のあり方について学ぶ。			
9月に保育実習Ⅱ（観察・参加・部分・責任：12日間、90時間以上）を指定された園で行う。			
※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。			
テキスト	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版）		
参考書・ 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布		
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40%）、実習日誌の記録・実習園の評価（60%）から総合的に評価		

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ		単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子
			担当形態：単独 演習
科 目	保育実習		
授業の到達目標 及びテーマ	実習事前指導において保育実習Ⅰでの反省を踏まえ、保育実習Ⅱでの学びがより深められるよう、指導計画の立案や実践力を高めるための知識や技術の向上に重点を置いて行う。また実習事後指導では実習を振り返り、自己課題を明確にすること、さらに保育観を確立していくための学びを行っていく。		
授業の概要	既学習を踏まえ保育実践力を培い、保育士の専門性や職業倫理について理解すること、保育について総合的に学ぶことを目的とする。また、事前事後指導を通して、自己課題を明確にし保育に対する認識を深める。		
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス、保育実習Ⅱの意義と目的			
第 2 回：保育所の多様な機能と役割／保育所における子育て支援と地域との連携			
第 3 回：保育所・幼稚園・小学校との連携			
第 4 回：個別・集団に応じた適切なかかわり／保育者同士の連携			
第 5 回：保育の実践技術を生かした保育実践			
第 6 回：保育指導計画の立案・作成①（責任実習・・・主活動）			
第 7 回：保育指導計画の立案・作成②（責任実習・・・全 日）			
第 8 回：保育の観察、記録、自己評価			
第 9 回：保育士の専門性と職業倫理			
第 10 回：事後指導における実習の総括と自己評価①			
第 11 回：事後指導における実習の総括と自己評価②			
第 12 回：事後指導における実習の総括と自己評価③			
第 13 回：事後指導における実習の総括と自己評価④			
第 14 回：課題の明確化と保育観の確立			
第 15 回：まとめ			
定期試験			
テキスト	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版）		
参考書・参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（40%）、試験（60%）の総合評価		

2020（令和2年度）

幼児教育科 教育課程シラバス

発行所 学校法人 愛国学園
愛国学園保育専門学校

〒133 - 8585

東京都江戸川区西小岩 5 - 7 - 1

TEL 03 - 3658 - 4113

FAX 03 - 5668 - 3131